

第四 熱

熱曲線ハ増進期極期及ヒ減退期ノ三期ヲ區分スルヲ得ヘシ概シテ増進期ハ最モ短ク減退期ハ之ニ均シキカ或ハ稍長ク極期ハ最モ長シ今マ各時期ニ關シ細說セム

甲 増進期

昇熱ノ狀況ハ發病日一頓ニ急昇シテ高熱ニ達スルモノト(第四圖)二日乃至三日間第五圖稀ニハクルシユマンノ唱フル如ク六日ニ互リ階段狀ヲナシ頂點ニ昇騰スルモノトアリ而シテ體温毎朝下降シ毎夕上昇スルヲ以テ通常トスルモ少數例ニ於テハ朝温卻テ夕温ヨリ高ク所謂反對熱型ヲ呈シタルモノアリ(第七圖)

日數、此ノ期ノ日數ハ五十四例ノ調査ニ據レハ次ノ如クシテ第一病日ニ一定熱度ニ達セシモノ最モ多ク第二第三病日之ニ次カタリ

第十一表 熱増進期ノ日數

日	數	患者員數	日	數	患者員數
一	二	四	二	四	四
二	一	九	三	五	五
三	八	六	四	六	六
四	八	六	五	六	六
五	八	六	六	六	六
六	八	六	七	六	六
七	八	六	八	六	六
八	八	六	九	六	六
九	八	六	十	六	六
十	八	六	十一	六	六
十一	八	六	十二	六	六
十二	八	六	十三	六	六
十三	八	六	十四	六	六
十四	八	六	十五	六	六
十五	八	六	十六	六	六
十六	八	六	十七	六	六
十七	八	六	十八	六	六
十八	八	六	十九	六	六
十九	八	六	二十	六	六
二十	八	六	二十一	六	六
二十一	八	六	二十二	六	六
二十二	八	六	二十三	六	六
二十三	八	六	二十四	六	六
二十四	八	六	二十五	六	六
二十五	八	六	二十六	六	六
二十六	八	六	二十七	六	六
二十七	八	六	二十八	六	六
二十八	八	六	二十九	六	六
二十九	八	六	三十	六	六
三十	八	六	三十一	六	六
三十一	八	六	三十二	六	六
三十二	八	六	三十三	六	六
三十三	八	六	三十四	六	六
三十四	八	六	三十五	六	六
三十五	八	六	三十六	六	六
三十六	八	六	三十七	六	六
三十七	八	六	三十八	六	六
三十八	八	六	三十九	六	六
三十九	八	六	四十	六	六
四十	八	六	四十一	六	六
四十一	八	六	四十二	六	六
四十二	八	六	四十三	六	六
四十三	八	六	四十四	六	六
四十四	八	六	四十五	六	六
四十五	八	六	四十六	六	六
四十六	八	六	四十七	六	六
四十七	八	六	四十八	六	六
四十八	八	六	四十九	六	六
四十九	八	六	五十	六	六
五十	八	六	五十一	六	六
五十一	八	六	五十二	六	六
五十二	八	六	五十三	六	六
五十三	八	六	五十四	六	六
五十四	八	六	五十五	六	六
五十五	八	六	五十六	六	六
五十六	八	六	五十七	六	六
五十七	八	六	五十八	六	六
五十八	八	六	五十九	六	六
五十九	八	六	六十	六	六
六十	八	六	六十一	六	六
六十一	八	六	六十二	六	六
六十二	八	六	六十三	六	六
六十三	八	六	六十四	六	六
六十四	八	六	六十五	六	六
六十五	八	六	六十六	六	六
六十六	八	六	六十七	六	六
六十七	八	六	六十八	六	六
六十八	八	六	六十九	六	六
六十九	八	六	七十	六	六
七十	八	六	七十一	六	六
七十一	八	六	七十二	六	六
七十二	八	六	七十三	六	六
七十三	八	六	七十四	六	六
七十四	八	六	七十五	六	六
七十五	八	六	七十六	六	六
七十六	八	六	七十七	六	六
七十七	八	六	七十八	六	六
七十八	八	六	七十九	六	六
七十九	八	六	八十	六	六
八十	八	六	八十一	六	六
八十一	八	六	八十二	六	六
八十二	八	六	八十三	六	六
八十三	八	六	八十四	六	六
八十四	八	六	八十五	六	六
八十五	八	六	八十六	六	六
八十六	八	六	八十七	六	六
八十七	八	六	八十八	六	六
八十八	八	六	八十九	六	六
八十九	八	六	九十	六	六
九十	八	六	九十一	六	六
九十一	八	六	九十二	六	六
九十二	八	六	九十三	六	六
九十三	八	六	九十四	六	六
九十四	八	六	九十五	六	六
九十五	八	六	九十六	六	六
九十六	八	六	九十七	六	六
九十七	八	六	九十八	六	六
九十八	八	六	九十九	六	六
九十九	八	六	一百	六	六

乙 極期

本期ニ於テ多數ノ患者ハ平均體温四十度内外ヲ多少不正ニ弛張シツツ稽留シ日差一度内外ニ及ヒ所謂弛張性稽留狀ヲ呈ス然レトモ少數例ニ於テハ數日間或ハ全經過ヲ通シテ日差〇.五以下ニシテ真ノ稽留熱ヲ呈シタルモノアリ又初メ四十度内外ニ稽留シ此ノ期ノ中途ニシテ俄然約一度下降シ三十九度内外ニ稽留シタル一例アリ(第六圖)而シテ最高體温ハ各例多少ノ相違アリ四十一度三分乃至三十八度五分ノ間ニアリ日差ハ毎日多少ノ差異アリ一様ナラスシテ最大二度最少二分ナリシ今マ此ノ期ニ於ケル最高熱度ニ就キ八十五例ノ調査ヲ示セハ次ノ如シ

- 三十八度五分乃至四十度ノモノ 三十例
- 四十度一分乃至四十度四分ノモノ 四十三例
- 四十度五分以上ノモノ 十二例

極期ト重輕症トノ關係ニ就テ調査スルニ此ノ期ニ於ケル熱度ハ輕症ト雖モ高クシテ唯重症ニ比シ其ノ日數短ク五日乃至九日ニ過キス而シテ本期ノ持續日數ハ二十例ノ調査次ノ如クシテ五日乃至十二日ノ間ニアリ

第十二表 極期持續日數

五	日ノモノ	二	例
六	日ノモノ	一	例
七	日ノモノ	三	例
八	日ノモノ	三	例

九	日ノモノ
十	日ノモノ
十一	日ノモノ
十二	日ノモノ

七	例
一	例
一	例
二	例

丙 減退期

降熱ト病日 クルシユマンニ據レハ中等症及ヒ重症ニシテ恢復ニ赴クモノニ在リテハ第十病日乃至第十二病日ノ間ニ於テ下降ニ就クヲ例トスリーベルマイステルハ完備セル症例ニ於テハ平均第十四病日頃ニ降熱ヲ始ムヘシト云フ此ノ役ノ例證ニ於テハ第九乃至第十五病日ニ於テスルモノ最モ多カリシ之ヲ細示スレハ七十例ノ調査左ノ如シ

第四病日	一	第十一病日	八
第五病日	一	第十二病日	九
第六病日	一	第十三病日	一
第七病日	四	第十四病日	六
第八病日	二	第十五病日	七
第九病日	一	第十六病日	一
第十病日	八		

降熱ノ狀況 クルシユマンニ據レハ熱ノ下降ニ就クヤ格魯布性肺炎ニ於ケルカ如ク迅速急激ナ

ルハ甚ダ稀ニシテ最モ多キハ二十四時間乃至四十八時間ニ階梯狀ヲナシ常度ニ下降ス又時トシテ全身症狀ノ増進ヲ伴ヒ體溫分利前ノ變動ヲ呈スルコトアリ尙ホ少數ノ例ニテハ假性分利ヲ營ム即チ持續性下熱ノ前ニ於テ體溫ハ一旦常度或ハ其ノ以下ニ降り十二時間後或ハ之ヨリモ早ク再ヒ殆ト故ノ高熱度或ハ以上ニ達シ次テ終局的下降ヲナストスリーベルマイステルモ亦合併症ナキ例ニ於テハ十二時間乃至三十六時間ニシテ常度ニ降ルヘシト云フ今回ノ例ニ於テハ分利前變動ヲ呈シタルモノナク唯一例下熱前ニ昇騰シ(第十三圖)亦少數例ニ假性分利ヲ見タリ又分利前下降アリシハ六例ニシテ多クハ階梯狀漸次降熱若クハ一直線狀漸次降熱若クハ兩者交錯ノ狀ヲ呈セリ階段狀漸降ニ於テハ夕温ハ當日ノ朝温ニ比シ高ク前日夕温ヨリモ低シ之ニ日差多寡ノ別アリ日差多キトキハ弛張性ヲ呈ス直線狀漸降ニアリテハ夕温ハ前日夕温及ヒ當日ノ朝温ヨリ低シ之ヲ區分スレハ左ノ如シ

- 甲 分利的降熱ノモノ(第八圖)
  - 乙 假性分利(第九圖)
  - 丙 假性分利兼間歇熱的漸降ノモノ(第五圖)
  - 丁 直線狀漸次降熱ノモノ(第十圖)
  - 戊 階梯狀漸次降熱ノモノ(第十一圖)
  - 己 直線狀及ヒ階梯狀降熱交錯ノモノ(第十四圖)
- 日數 減退期ノ日數ニ就キ七十二例ノ調査次ノ如シ

第十三表 熱減退期ノ日數

日	患者員數	日	患者員數
一	九	四	一六
二	二一	五	三
三	二	計	七二
	三		

丁 有熱日數

本病ノ有熱期ハ合併症ナキ例證ニテハ第十二乃至第十七日ナルヲ例トス(クルシユマン)此ノ役ノ例證ニ於テモ概ネ之ニ一致シ十一乃至十七日ノモノ最モ多シトス而シテ輕症ハ六日乃至十四日ニシテ經過セリ

第十四表 有熱日數

有熱日數	員數	有熱日數	員數
六	一	十	八
七	一	十	六
九	四	十	九
十	一	計	三七
	三		
	五		
	九		

死亡轉歸ヲ取リタルモノノ體温ハ朝夕温度ノ差比較的僅少ニシテ瀕死前體温昇騰ヲ來シ脈搏モ亦急劇ニ増加シ百三十或ハ其以上ニ達シ遂ニ數フルコト能ハサルニ至レリ此ノ際多クハ顔面四肢共ニ「チアノーゼ」ヲ呈シタリ

戊 恢復期

解熱當日ハ體温比較的高ク平均三十六度前後ヲ示シ三十六度以下ニ達セシモノハ少數ニシテ大多數ハ解熱後第二乃至第四日ニ於テ最低温度ヲ示シ早キハ第一日遅キハ第七或ハ第八日ニ於テ始メテ最低温ニ達セシモノハ解熱當時ノ體温モ亦比較的低ク多クハ輕症或ハ中等症ニ於テ見ル所ナリ四日以後ニ於テ始メテ最低温度ヲ示セシモノハ解熱時尙ホ生理的常温ヨリモ高ク多クハ重症或ハ合併症ヲ有スルモノナリキ

此ノ期ニ於テハ體温動モスレハ微昇シテ三十七度四五分ニ達シ一日間ニシテ再ヒ低降セシ例アリ多クハ神經質或ハ虛弱或ハ羸瘦セル患者ニ於テ來リシカ如シ之カ誘因ト認ムヘキモノハ早キニ過クル離牀不攝生精神的興奮等ナレトモ亦屢々何等ノ誘因ヲモ證明シ能ハサルコトアリシカ如シ體温及ヒ脈搏平常ニ復スルハ多クハ解熱後概ネ一週乃至二週前後ニ互レリ十日以後ニ於テ平復セシモノハ重症若クハ合併症ヲ有シタルモノナリ輕症或ハ中等症ニシテ而カモ生來壯健ナルモノニアリテハ平常ニ復スルコトモ亦速カナリシカ如シ

圖 六 第

ノモノ段二期極

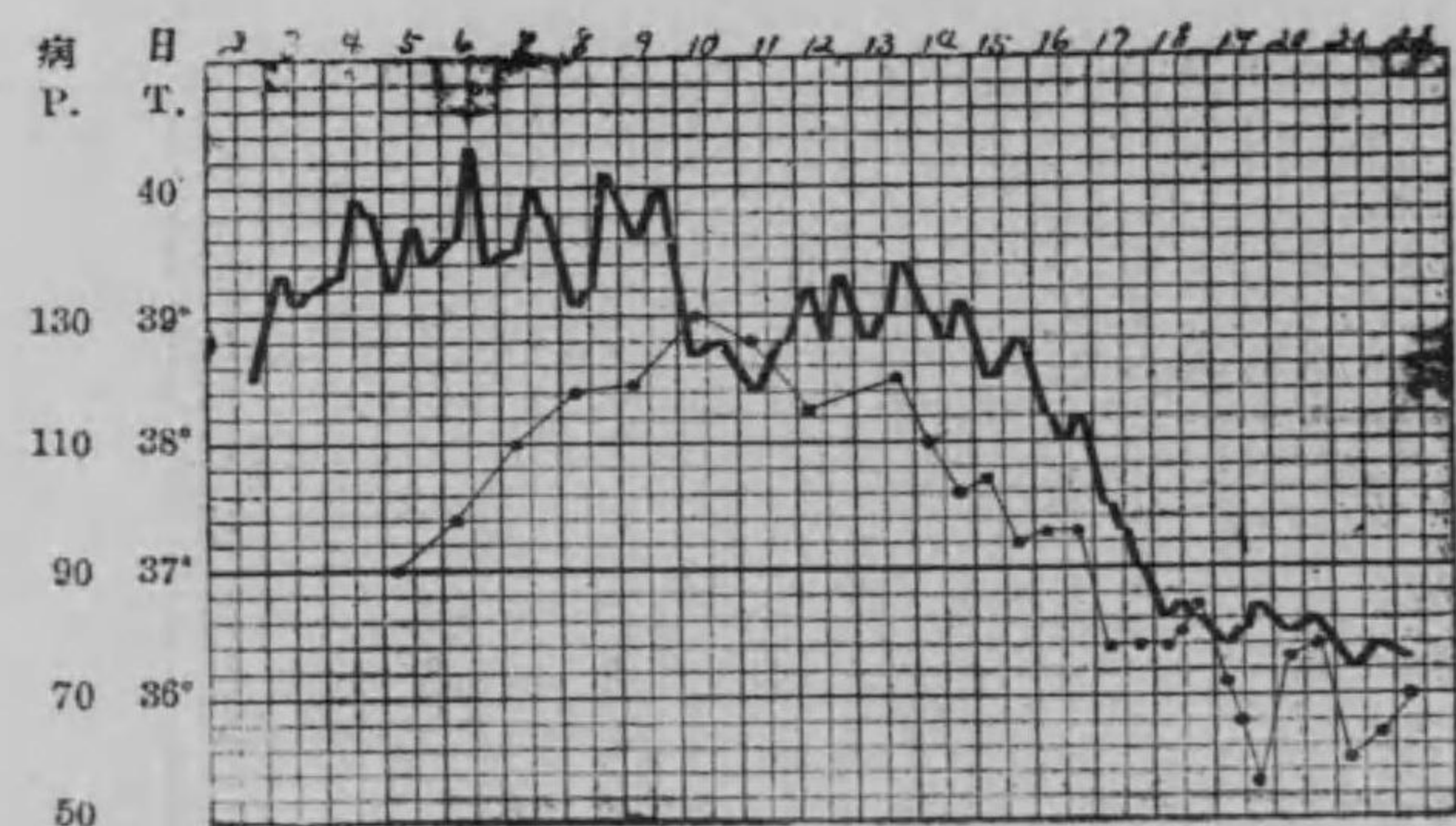


圖 七 第

ノモノ型熱對反

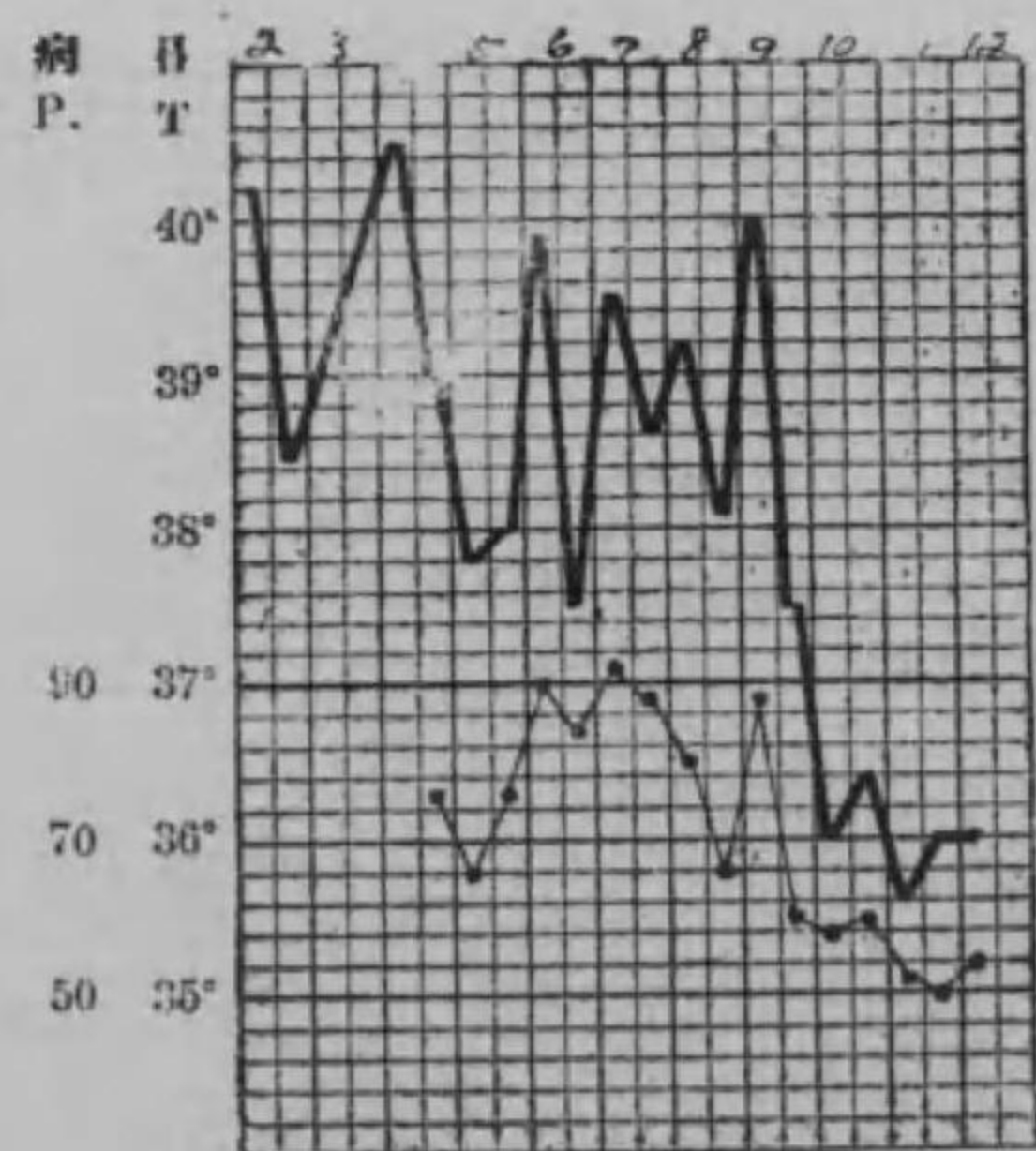


圖 四 第

ノモルス途ニ熱高テシ昇急ニ頓一

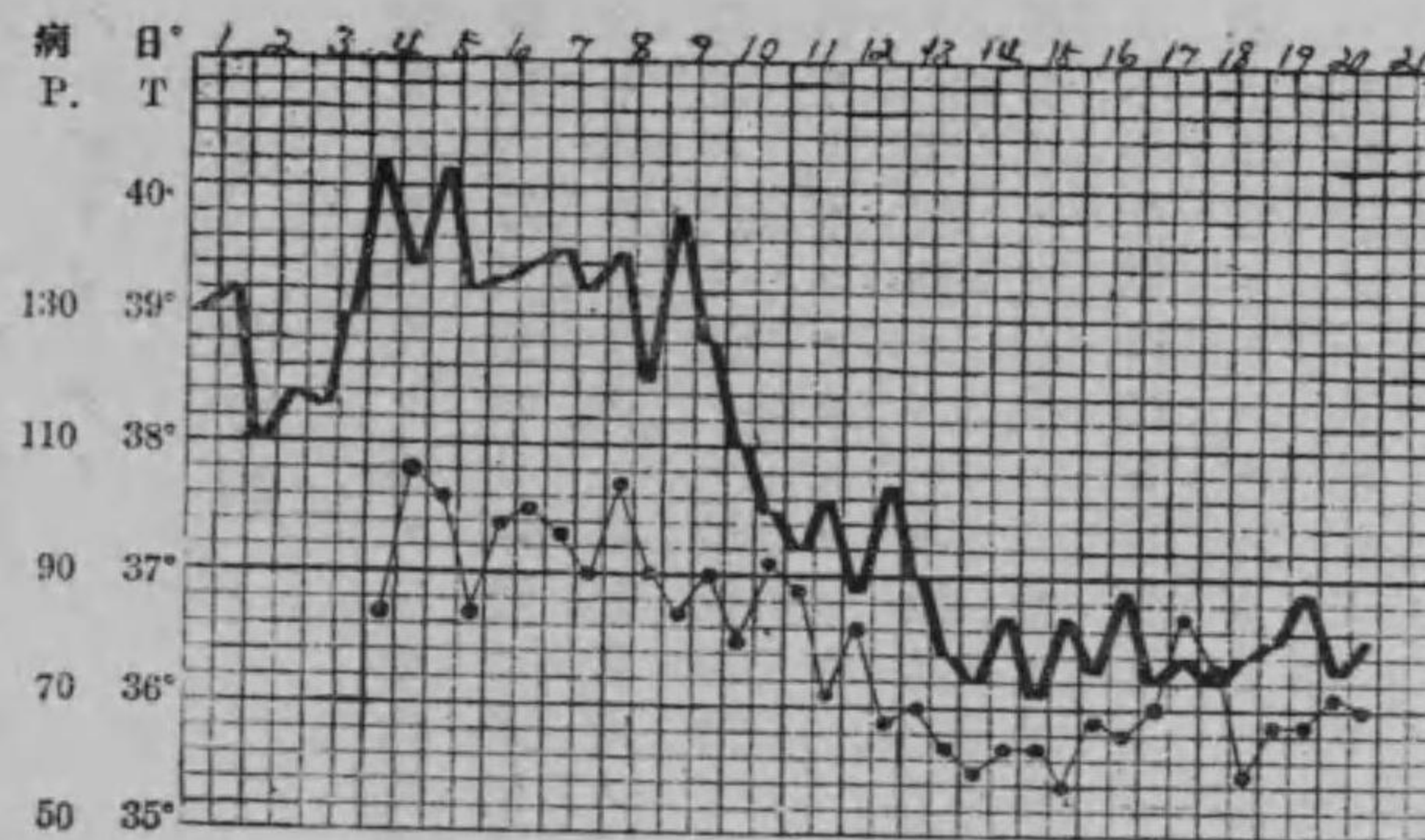


圖 五 第

ノモルス騰昇ニ點頂シナチ狀段階 一  
ノモノ降漸的熱歇間兼利分性假 二

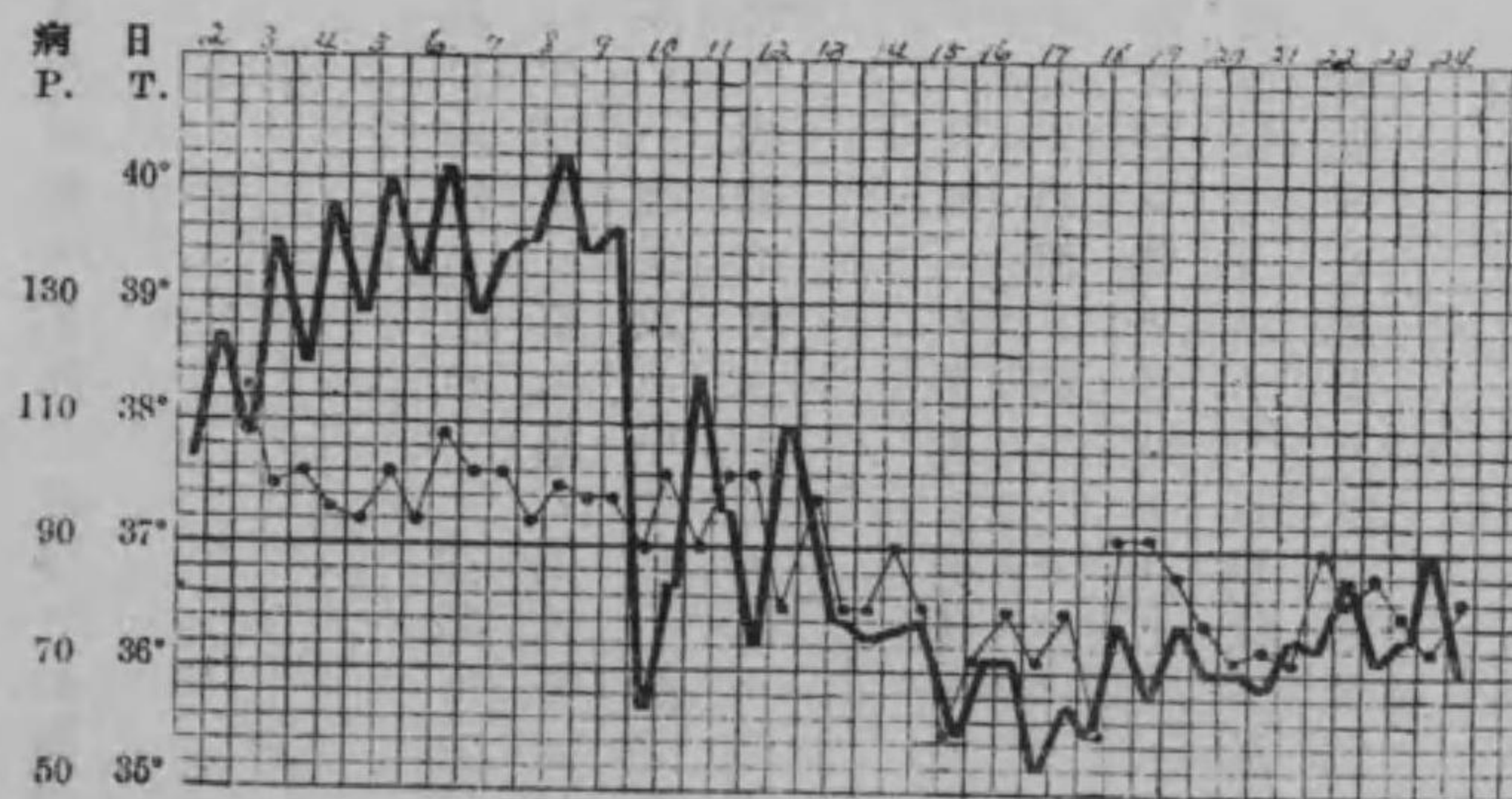


圖 十 第

ノモノ熱降次過狀線直

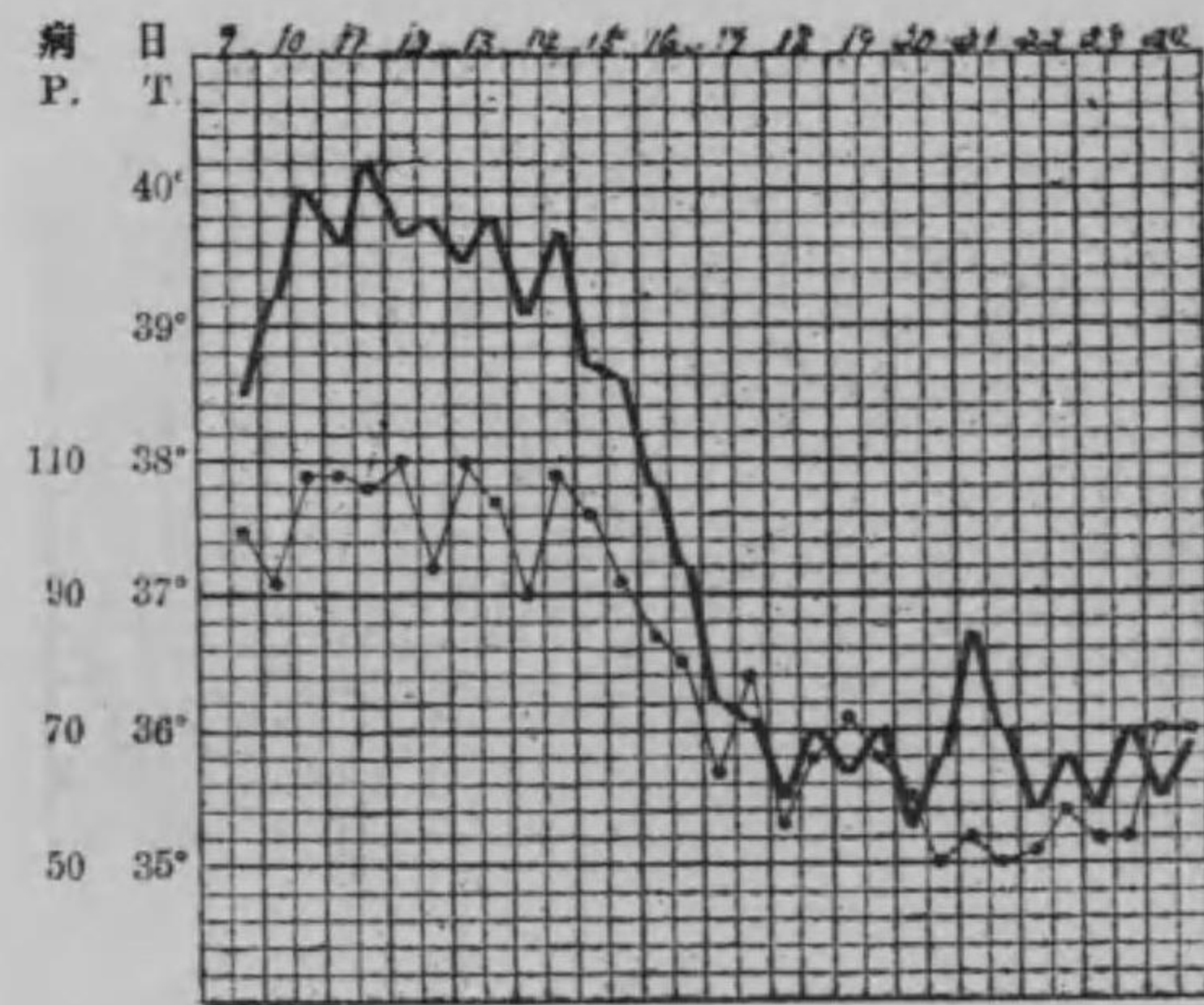


圖 一 十 第

(ノモキナ少差日) ノモノ熱降次漸狀段階

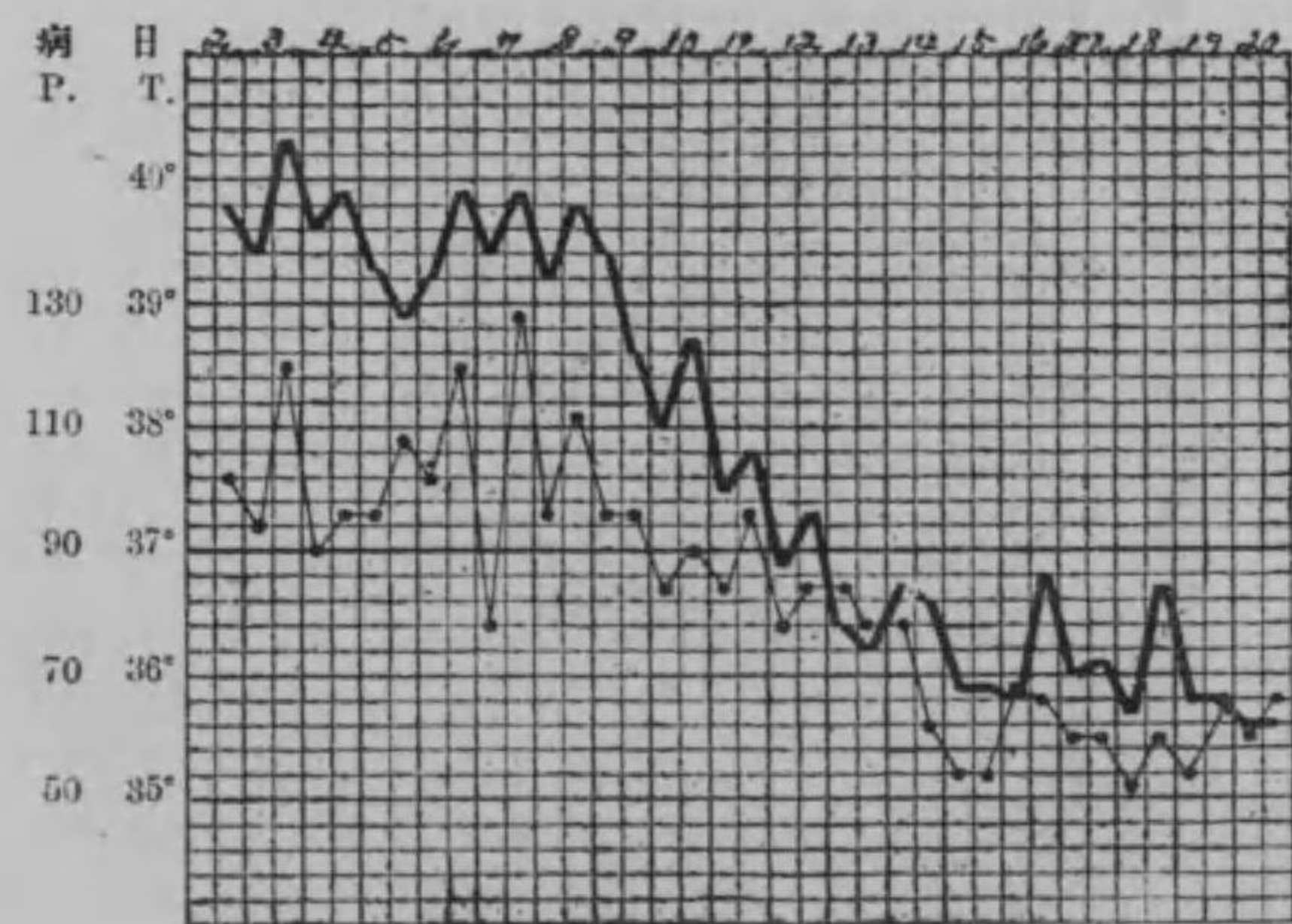


圖 八 第

ノモノ熱降的利分

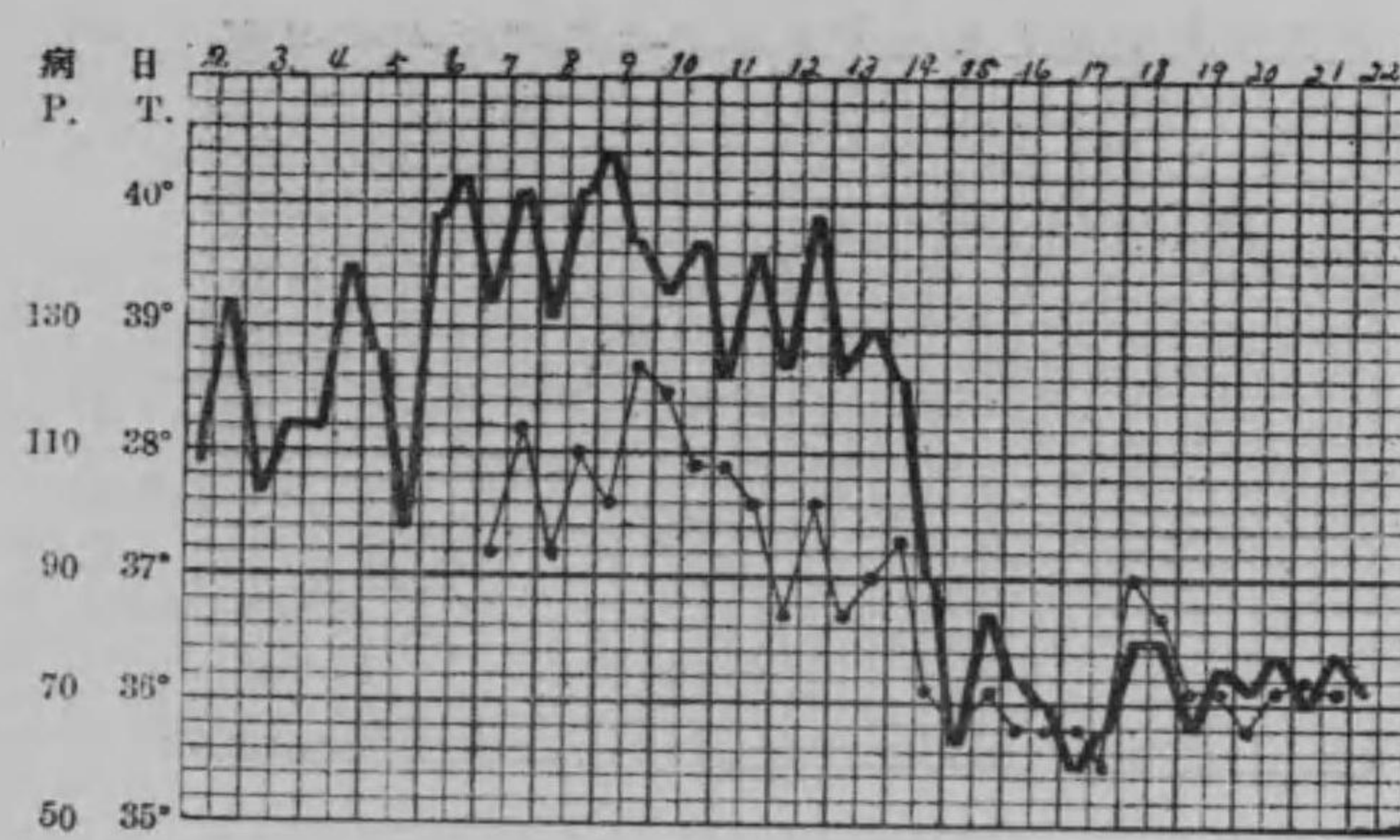


圖 九 第

ノモノ利分性假

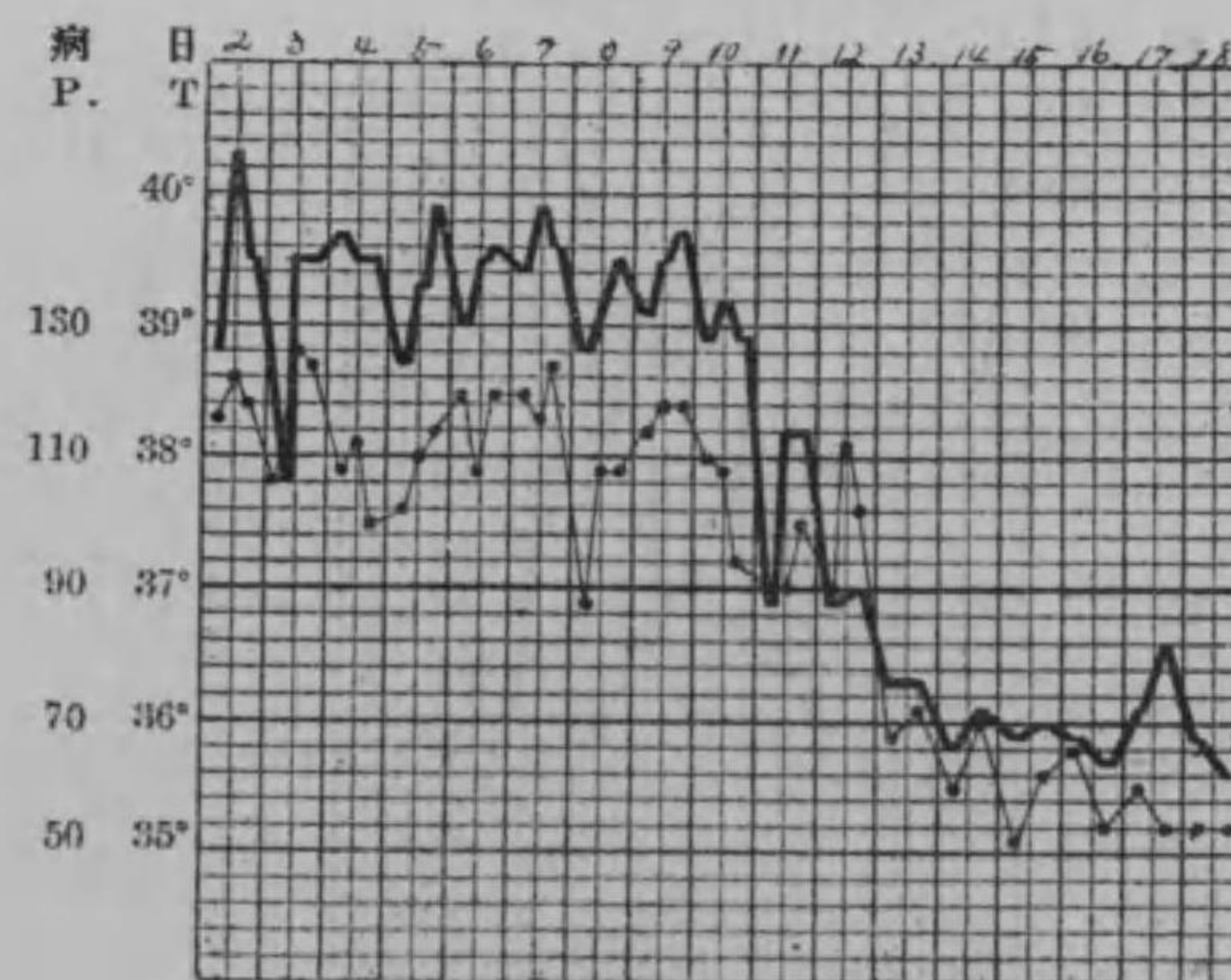


圖 四 十 第

ノ 電 ノ 錯 交 熱 降 狀 梯 階 及 狀 線 直

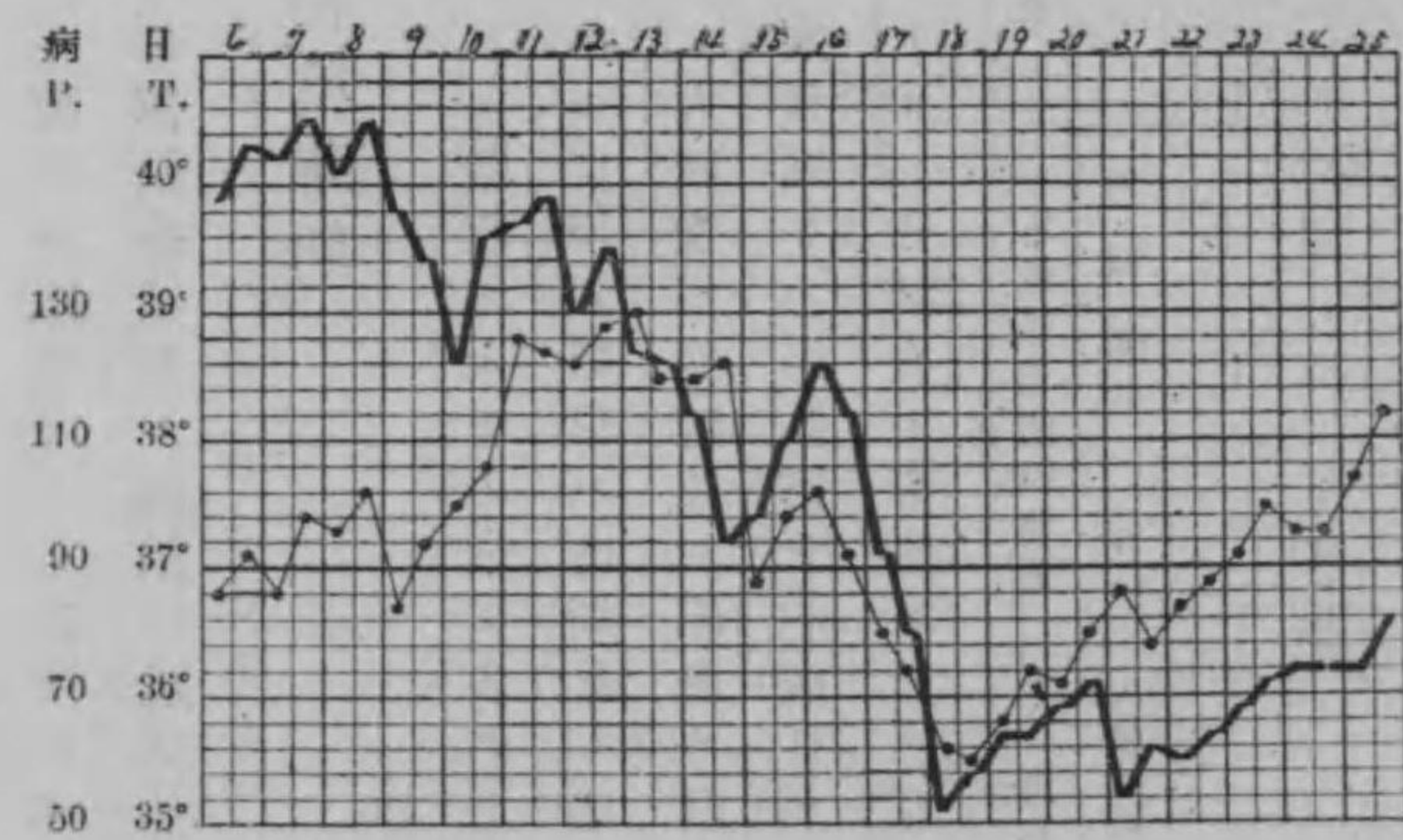


圖 二 十 第

ノ 電 年 多 差 日) ノ 電 ノ 熱 降 次 漸 狀 段 階

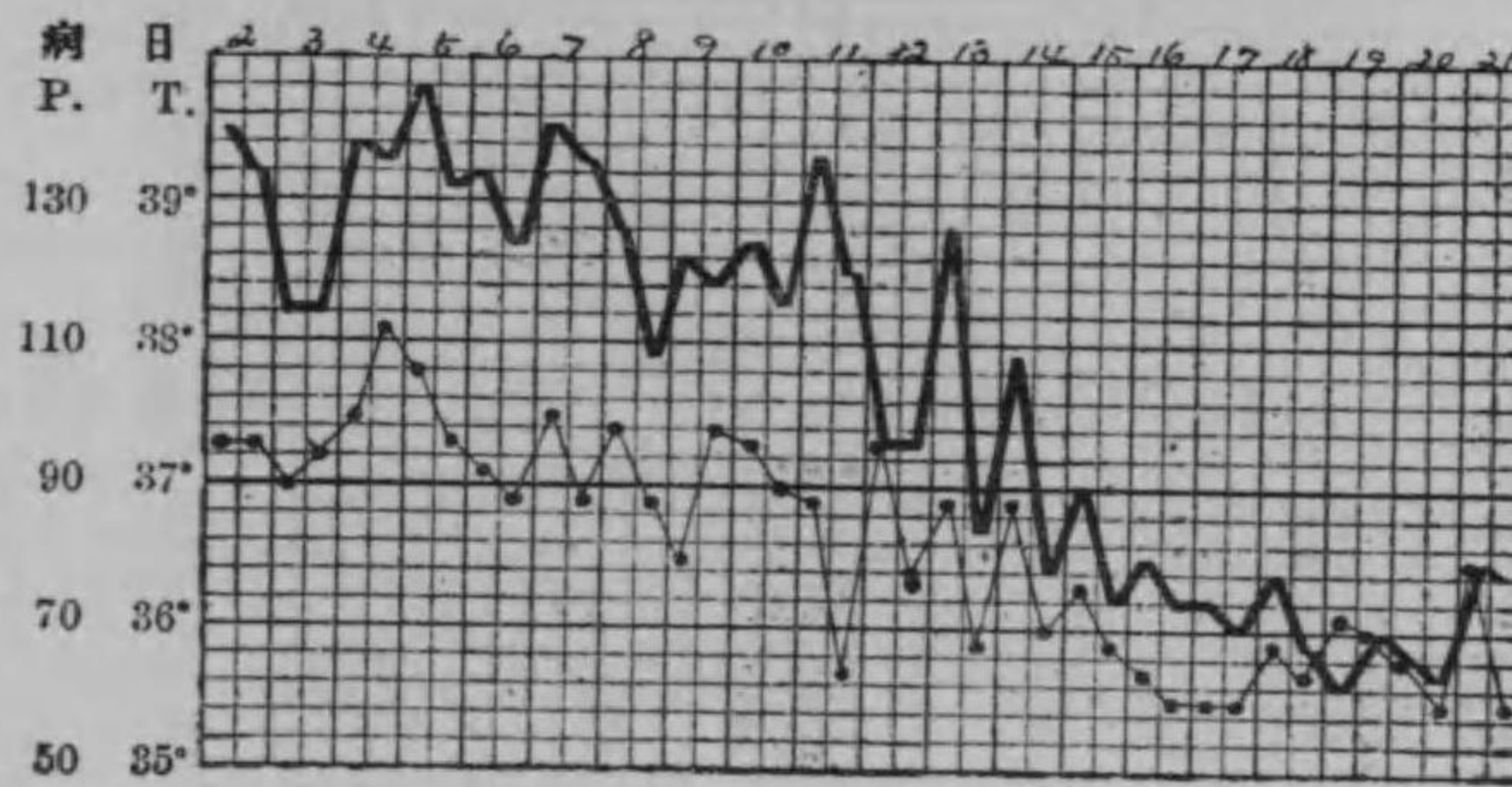
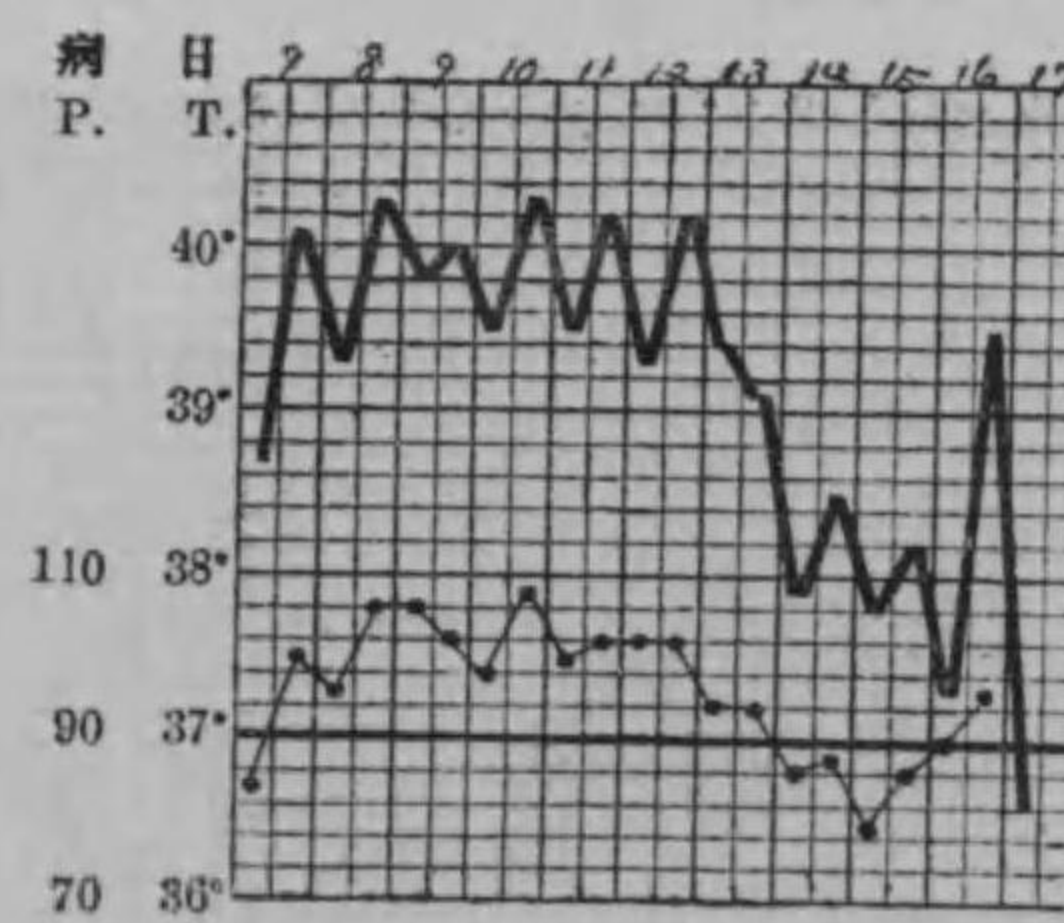


圖 三 十 第

ノ 電 ノ 騰 昇 前 熱 下



第五 皮膚

皮膚ノ變化ハ熱型ト同シク亦主要ナル症候ニシテ皮疹ハ必ス本病ニ隨伴シ而カモ特異ナルモノトス就中皮疹ノ發生性狀蔓延部位數持續及ヒ消散ニ於テ然リトス

甲 皮疹初發時期

職籍ニ依ルニ第四日乃至第五日ニ發現スルモノ最モ多ク之ニ次クヲ第六日乃至第七日トシ早キハ第二日ニ發スルモノアリ而カモ皮疹ノ發現ハ時期及ヒ地理的關係ニヨリ多少其ノ趣ヲ異ニス  
ト此ノ役ノ例證ニ於テ廣島及ヒ大阪豫備病院並ニ編者ノ調査ニ據レハ最モ多ク第二乃至第七病日ニ發現セリ就中早キハ第一病日遅キハ第九第十一病日ニ發現セシモノアリ即チ之ヲクルシユ  
マンノ「クリニツク」ニ於ケルサロモンノ調査ト對照スルニ左ノ如シ

病日	サロモン調査		大阪豫備病院調査		廣島豫備病院調査		編者ノ調査	
	例證數	%	例證數	%	例證數	%	例證數	%
第一日	1	1.1	1	4.76	2	5.26	1	3.33
第二日	4	11.1	1	4.76	5	13.15	3	10.00
第三日	1	2.8	8	23.81	5	13.15	1	3.33
第四日	2	5.6	1	4.76	6	15.78	5	16.67
第五日	13	36.1	2	5.52	2	5.26	5	16.67
第六日	1	2.8	1	2.76	1	2.63	6	20.00
計	36	100	21	100	24	100	30	100

病日	サロモン調査		大阪豫備病院調査		廣島豫備病院調査		編者ノ調査	
	例證數	%	例證數	%	例證數	%	例證數	%
第七日	5	13.89	2	9.52	2	5.26	6	20.00
第八日	2	5.56	4	19.05	1	2.63	3	10.00
第九日	1	2.78	1	4.76	1	2.63	1	3.33
第十日	1	2.78	1	4.76	1	2.63	1	3.33
第十一日	1	2.78	4	19.05	1	2.63	1	3.33
計	36	100	21	100	24	100	30	100

乙 皮疹ノ蔓延及部位

皮疹ノ發生スルヤ一二日ニシテ極度ニ達シ短時日ノ間ニ軀幹四肢一様ニ遍ク多發ス從テ部位ニ依リ蔓延ノ遲速ヲ區別スルコト難シ然レトモ稀ニ軀幹ニ於ケル皮疹ハ既ニ其ノ極度ニ達セルモ四肢ニ於ケルモノハ未タ其ノ極度ニ達セサルモノアリ而カモ皮疹ノ消退モ亦四肢ニ在リテハ軀幹ヨリ少シク後ルルヲ常トス故ニ大多數ニアリテハ全身殆ト同時ニ多發シ少數ニアリテハ先ツ軀幹ニ現ハレ次テ四肢ニ蔓延スルモノノ如ク軀幹ニ於テハ胸部腹部背部等部位ニヨリ殆ト區別ナキモノノ如シ  
上肢ニ於テハ伸側屈側又上膊前膊トモニ殆ト同時ニ發生スルモ時々伸側ハ屈側ヨリモ或ハ上肢ハ前膊ヨリモ早ク發疹セシモノアリ又手背ニ於テハ每常皮疹ヲ見ルモ手掌ニ於テハ缺如スルヲ常トセリ  
下肢ニ於テハ亦上下腿内外側ノ區別ヲ見ス時トシテハ多少相前後シテ發生スルコトアリ發疹ハ延ヒテ足背ニ及フモ足趾ニ發現セシモノ稀ナリ

顔面ハ常ニ初期或ハ極期ノ前半ニ於テ潮紅シ時トシテ著シク浮腫狀ヲ呈セシモノアリ通常皮疹ヲ缺クモ稀ニ皮膚菲薄ナルモノニ於テハ兩頰部殊ニ下顎附近ニ散在性ニ起リシモノアリ大阪豫備病院ノ例ハ頸部ノ發疹後顔面ノ一部ニ間、少數ノ發疹アリシモノアリ又足蹠手掌ニ發疹ヲ起シ翌日ニ至リ全ク消退シタル一例ト軟口蓋ニ點狀溢血斑様ノ發疹ヲ起シタル二例アリト

丙 皮疹汎發日數

本病ノ蓄微疹ハ一齊ニ發生スルモノニシテ腸室扶斯ニ於ケルカ如ク逐次續生セサルヲ特有トス然レトモ一日間ニ全身ニ波及スルモノニ非ス從テ軀幹ノ疹ハ稍、消褪シテ褐赤色ヲ呈スルニ當リ四肢ニ新生充血疹ヲ起スモノアリタルシキマンニ從ヘハ概ネ四十八時間乃至七十二時間ナリトシリールベルマイステルハ三日乃至六日トナセリ本戰役ノ例證ニ於テ記載明カナル三十五例ニ就テ調査スルニ一乃至四日間ニシテ發疹ヲ終ヘタリ即チ次ニ示スカ如シ

全部發現ニ費シタル日數

例數

一	日	一	四
二	日	一	〇
三	日	七	七
四	日	四	四
計		三	五

丁 皮疹ノ多寡

皮疹ノ數ハ著シク多發シ殆ト簇生スルヲ通例トスルカ如キモ稀ニハ皮疹ノ比較的少數ナルモノアリ而シテ軀幹四肢殆ト一樣ニ多發シ部位ニ由リテ多少ノ別ナキモノ多シ而シテ多少ノ別アルモノハ毎例其ノ部位ヲ異ニシ一樣ナラス

戊 皮疹ノ性狀

皮疹ノ性狀ハ成書ノ記載ト大差ナク大サ通常帽針頭大乃至瓊斯大ノ斑ヲナシ皮膚面ヨリ隆起シ形ハ圓形或ハ不規則ノ輪廓ヲ有シ其ノ境界明確ナラス色澤ハ初メ淡紅色充血性ノ皮疹ニシテ指壓ニ消褪ス搔痒ノ感ナシ而シテ大多數ノ患者ハ發疹後平均三日時トシテ四日ニ至レハ指壓ニヨリ全ク消褪セス硝子壓舌子ヲ以テ壓迫スル時ハ皮疹ノ中心ニ出血アリ此ノ時期ニ於テハ疹ハ暗赤色若クハ銅色ヲ呈セリ大阪豫備病院ノ調査ニ據レハ出血斑ヲ起スモノ稀ナルニ反シ廣島豫備病院ニ於テハ出血性ノモノ三十八例中二十五例六五七八%ヲ報告シ編者ノ調査ニ依レハ記載明カナル三十一例中出血性ニ變シタルモノ二十例六四五一%ヲ算シタリ而シテ各皮疹悉ク出血性ニ變スルモノニアラス大多數ハ散在性ニ發現ヲ認メタリ  
斯ノ如ク皮疹カ局所充血ヨリ出血性ニ變スルモノヲ以テ豫後上ノ凶徴ト認メ得ヘキモノニアラス即チ重症ナルモ皮疹ノ大多數ハ蓄微疹ニ終ルアリ又輕症ナルモ著シク多數ノ出血性皮疹ヲ生スルモノアリ今マ三十一例ノ調査ヲ示セハ次ノ如シ

區別	治癒	死	亡
出血性ノモノ	一四		六
出血セサルモノ	七		四
總計	三十一例ニ對スル%		
			出血性及出血セサルモノニ對スル死亡%
			四二・八五
			五七・一七



第六 血行器

甲 脈搏

脈搏ハ熱候腦症ニ相伴ヒ豫後上樞要ノ關係アリ左ニ項ヲ分チテ敘セム

(イ) 發病期 此ノ期ノ脈性ハ一部入院前ノ爲メ多クハ明確ヲ缺ケリ然レトモ概ネ大ニシテ緊張アリ重輕症ヲ問ハス頻數ニシテ九十八乃至百乃至百算セリ

(ロ) 發疹期 脈搏初期ハ百二乃至百十至其ノ他ノ性狀ハ前者ニ均シ後期第一週ノ終第二週ノ始ハ百十乃至百三十至ニ達シ小トナリ緊張乏シ

(ハ) 減退期 此ノ期ニ於テハ脈搏減少シテ初メハ九十乃至百乃至終リニハ七十二乃至八十八至ヲ通常トセリ而シテ體温ノ下降ニ一致シテ脈搏亦其ノ數ヲ減少スルモノ多數ニシテ廣島豫備病院ニ於テハ三十八例中二十一例ヲ算シタリ然レトモ重症ニシテ極期ノ半或ハ後半ニ於テ始メテ其ノ定數ニ達スルモノニアリテハ脈搏ノ減少體温ノ下降ニ比シ少シク遲延セリ減退期ニ於テハ心臟機能再ヒ旺盛トナリ脈搏整然緊張ス然レトモ前記ノ如ク脈搏ノ減少ト體温ノ下降ト其ノ歩武ヲ一ニセルモノニアリテハ緊張尙ホ比較的弱キヲ以テ通常トス

(ニ) 恢復期 解熱後第一日ハ脈搏尙ホ比較的頻數ニシテ七十五乃至八十五至ヲ算スルモノ最モ多ク時トシテ百至ヲ算スルモノアリ輕症及ヒ中等症ニアリテハ常數或ハ常數以下ニ達ス而シテ最少數ヲ示スノ日ハ體温ノ最低溫度ニ達シタルノ日ト殆ト相一致セリ然レトモ體温下降ニ後ルルコト一二日乃至四日ニ互ルモノ亦尠ナカラス此ノ際多數ノ患者ニアリテハ脈搏六十至内外ヲ算スルモノ五十至以下ニ至ルモノアリ廣島豫備病院ノ實驗ニヨレハ四十至或ハ三十六至ヲ算シ而

カモ一週以上ニ互リテ心動緩徐ヲ呈スルモノアリ斯ノ如ク恢復期ニ於ケル心動緩徐ハ他ノ急性傳染病ニ於テ見ル如ク險惡ノ兆トスルニ足ラス而シテ解熱後脈搏尙ホ頻數ナルモノハ危險ニシテ長日間九十至内外ヲ算セシモノニ死ノ轉歸ヲ見タリト又生來虛弱或ハ過敏ナルモノニ於テ精神感動或ハ早ク蔭中ニ起坐スルカ如キ輕易ナル變動ニヨリ一時的脈搏增加セシモノ四例アリ之亦他ノ急性傳染病ニ於テ屢遭遇スル所ニシテ毫モ危懼スルニ足ラストセリ

(ホ) 複脈 ハ大阪豫備病院ニ於テ極期ニ二例ヲ認メ廣島豫備病院ニ於テハ解熱期並ニ恢復期ニ各一例ヲ認メタリト云フ

(ヘ) 死亡轉歸ヲ取リタル者ノ脈搏 ハ記載明カナル四名ノ死亡患者中三名ハ第一第二或ハ第三病日ニ於テ脈搏百十至内外ニ達シ之ヨリ漸次増加シ或ハ其ノ定數ニ止マル此ノ際朝夕脈搏ノ差平均四至内外ニシテ體温不正ニ著シク弛張或ハ間歇ヲ始ムルヤ脈弧線モ亦不正トナリ脈搏ハ細小微弱ニシテ時ニ不正結代シ甚タシキニ至リテハ百二十至ヨリ急ニ七十至若クハ其ノ以下ニ減シ一二日ノ後チ再ヒ頻數トナリ顔面冷汗ヲ被リ手足チアノーゼヲ呈ス又一時性或ハ持續的ニ熱弧線ト交叉シ瀕死前體温昇騰ト共ニ脈搏急劇ニ増加シ百四十至或ハ百六十至ニ達シ遂ニ心臟麻痺ニ陥リテ斃ル又一名ノ患者ニアリテハ第十六病日ニ於テ全ク解熱シ脈搏モ亦次第ニ減少セシモ尙ホ九十至内外ヲ昇降シ遂ニ衰弱ニヨリ解熱後第七日ニ於テ死亡シタリ

(ト) 體温ト脈搏 ノ關係ニ就テハ廣島豫備病院ニ收容セル患者三十八名中死亡及ヒ脚氣ニ本病ヲ併發セシモノヲ除キタルモノノ脈搏ハ體温ニ相應セルカ或ハ比較的稍多數ニシテ稀ニハ比較的少數ナルモノアリシ茲ニ其ノ關係ヲ摘記スルコト左ノ如シ

(A) 最高溫度四十度ヲ越エサル輕症及ヒ中等症

- (一) 體温三十八度八分内外ヲ上下シテ脈搏百十五至ヲ算セシモノ
  - (二) 體温三十九度内外ヲ上下シテ脈搏百零四乃至百十五至内外ヲ算セシモノ
  - (三) 體温三十九度五分内外ヲ上下シテ脈搏九十五乃至百零五至内外ヲ算セシモノ
  - (四) 體温三十九度二分内外ヲ上下シテ脈搏九十乃至百十至内外ヲ算セシモノ
  - (五) 體温三十八度五分内外ヲ上下シテ脈搏百零五至ヲ算セシモノ
- (B) 最高温度四十度ヲ越エタル輕症及ヒ中等症
- (一) 體温三十九度五分内外ヲ上下シテ脈搏百十二乃至百二十至内外ヲ算セシモノ
  - (二) 體温三十九度七分内外ヲ上下シテ脈搏九十五或ハ百至内外ヲ算セシモノ
  - (三) 體温三十八度五分内外ヲ上下シテ脈搏九十至ヲ算セシモノ
  - (四) 體温四十度内外ヲ上下シテ脈搏百零五或ハ百零六至内外ヲ算セシモノ
- (C) 最高温度四十度ヲ越エタル中等症及ヒ重症
- (一) 體温三十八度七分内外ヲ上下シテ脈搏百十至ヲ算セシモノ
  - (二) 體温三十九度内外ヲ上下シテ脈搏百二十至ヲ算セシモノ
  - (三) 體温三十九度三分内外ヲ上下シテ脈搏百零五至ヲ算セシモノ
- (D) 最高温度四十度ヲ越エタル中等症及ヒ重症
- (一) 體温三十九度内外ヲ上下シテ脈搏百十二至ヲ算セシモノ
  - (二) 體温三十九度五分内外ヲ上下シテ脈搏百十五乃至百二十至内外ヲ算セシモノ
  - (三) 體温三十九度七分内外ヲ上下シテ脈搏百至内外ヲ算セシモノ

### 乙 心臟

恢復期ニ於テ二三患者ニ頸靜脈ニ獨樂音ヲ聽取シ又非器質的雜音第二肺動脈音分裂等ヲ聽取セシコトアリシモ終ニ瓣膜障礙心臟肥大或ハ擴張等ノ器質的變化ヲ證明セシコトナキカ如シ又衰憊性靜脈栓塞ハ時トシテ重症ノ急性傳染病經過後ニ於テ屢逢遇スル所ナルモ此ノ役一例タモ經驗ナシ

### 丙 血液検査

大阪豫備病院川島軍醫正ノ調査ニ據レハ白血球ノ過多症及ヒ腸室扶斯ニ於ケルカ如ク白血球減少症ヲ認メヌ又覆蓋硝子標本ノ染色検査ヲナセシニ「エオジン」嗜色細胞ノ減少シタルコト左ノ如シト

種別	近藤 某 (發病第五日採血ノモノ) %	山村 某 (解熱後第一日採血ノモノ) %
中性多核細胞	六六・六七	七一・六五
「エオジン」嗜色細胞	〇・四六	〇・九三
移行狀態細胞	九・二〇	一〇・五九
大單核細胞	一六・三二	八・七三
淋巴球細胞	七・三六	八・一〇

廣島豫備病院ニ於テハ五名ノ患者ニ就キ血液検査ヲ行ヒシニ厚層ニ於テハ赤血球ノ縞鏡狀排列

ハ常態ニ異ナラス又白血球ノ變態モ認メス而シテ赤白血球及ヒ白血球ヲ計測スルニ次ノ如キ成績ヲ得タリト

患者名	熱經過中検査	赤白血球	白血球	白血球ノ比
(一) 若島某	(熱經過中) 同	五六九〇七〇〇	一一四〇〇	一ト四九・二
(二) 林某	(同) 同	四六一九〇〇〇	八八〇〇	一ト五二・四・九
(三) 小川某	(同) 同	五六〇〇〇〇〇	一一六〇〇	一ト四八・二・八
(三) 小川某	(解熱後第三日) 同	五七六八七五〇	一一〇〇〇	一ト五二・四・四
(四) 山村某	(同) 同	三七五六二五〇	八二〇〇	一ト四五・八・一
(四) 山村某	(同) 同	四一五〇〇〇〇	一一一〇〇	一ト三四・二・九
(四) 山村某	(同) 同	六三三七五〇〇	一一六〇〇	一ト五四・六・二
(五) 近藤某	(熱經過中) 同	五四八一二五〇	一一三〇〇	一ト四八・五・一
(五) 近藤某	(解熱後第一日) 同	五五六一八〇〇・〇	一〇八五〇・〇	一ト五一・二・六
以上熱經過中平均數	同	五〇〇二〇八三・三	一〇一六六・六	一ト四九・二・〇
以上解熱直後平均數	同	同	同	同

茲ヲ以テ赤白血球ハ熱經過中最少四六一九〇〇〇最多六三三七五〇〇ニシテ平均五五六一八〇〇即チ殆ト普通ナリ然ルニ解熱直後ニ於テハ最少三七五六二五〇最多五七六八七五〇ニシテ平均五〇〇二〇八三・三即チ赤白血球ハ解熱直後ニ於テハ多少減少スルモ生理的範圍内ナリ

白血球ハ熱經過中最少八八〇〇最多一一六〇〇ニシテ平均一〇八五〇ナリ而シテ解熱後ニ於テハ最少八二〇〇最多一一三〇〇ニシテ平均一〇一六六ナリ故ニ白血球ハ解熱直後ニ於テハ少シク減少スルモ之レ亦生理的範圍内ニアリ

熱經過中白血球カ赤白血球ニ對スル割合ヲ見ルニ最少一ト五四・六・二最多一ト四八・二・八ニシテ平均

一ト五一・二・六ナリ又解熱直後ニ於テハ最少一ト五二・四・四最多一ト四五・八・一ニシテ平均一ト四九・二・〇ナリ故ニ熱經過中及解熱直後ニ於テハ白赤兩白血球ノ割合ハ殆ト普通ト見做スコトヲ得ヘシト

之ヲ要スルニ以上ノ調査ニヨリテハ未タ直ニ斷案ヲ下スコト固ヨリ不可能ナリト雖モ熱經過中及ヒ解熱直後ニ於テハ白血球ノ減少ヲ證明セサルモノトシテ可ナルヘシ

### 第七 神経系及五官

#### 甲 脳症候

頭痛ハ初期ニ於ケル必發ノ症狀ニシテ前額顯或ハ後頭部ニ訴フル等一定スル所ナシト雖モ時ニ頭痛劇烈ニシテ爲メニ爾餘ノ自覺症狀全ク隠蔽セラレルニ至ルモノアリ或ハ頭痛ト共ニ不眠症ヲ訴ヘ且ツ多少不安ナリシモノアリ又ハ稍安靜ニシテ比較的能ク睡眠セシモノモ屢不眠ニ陥ルコトアルニ反シ輕症ナルモノハ概ネ熟睡スルコトヲ得タル等一樣ナラス然レトモ發疹後二三日ニ至ルトキハ精神多少癡鈍トナルモ外界ニ對スル認識ハ尙ホ確實ナリ尤モ重症患者ニアリテハ初メヨリ已ニ精神溷濁ヲ來シタリ

輕症及ヒ中等症ノ患者ニアリテハ著シキ腦症狀ヲ呈スルコトナシト雖モ輕度ニシテ往々極期ノ後半ニ至リ夜間嘔々譫語ヲ發シ更ニ經過ニ伴ヒ白晝ト雖モ精神朦朧トシテ外界ニ干與セス高聲或ハ譫語ヲ發スルアリ顔貌無慾狀態ニシテ口ヲ開キ眼瞼モ亦僅ニ開キテ眼球ハ第一視位ヲ取リ舌ハ乾燥煤色ヲ呈シ著シク振顫ス手モ亦著シク震顫シ其ノ他時々痙攣性ニ一二ノ手指ヲ動カシ所謂臆跳動ヲ呈シ他動的ニ不便宜ナル位置ヲ與フルモ之ヲ變スルコトナク所謂硬性痙攣ヲ呈ス

ルモノアリ是等ハ悉ク重症患者ニ於テ認メタルモノニシテ又壯年強壯ナルモノニアリテハ往々妄想ノ爲メニ大聲ヲ放チ罵言シ動モヌレハ監視者ニ迫リテ暴力ヲ逞クシ或ハ牀頭ニ陳列セル物品ヲ散亂シ或ハ突然臥牀ヨリ歌起シテ室外ニ逸出シ又ハ巧ミニ監視者ノ眼ヲ掠メテ脱走ヲ企テタルモノアリ又體質稍薄弱或ハ羸瘦セルモノニアリテハ多クハ沈鬱ニシテ靜臥シ唯不明ノ言語ヲ喃々シ飲食ヲ要求セス他人之ヲ促カスニアラサレハ服藥排尿共ニ之ヲナサス往々兩便失禁及ヒ尿閉ヲ來タセシモノアリ而シテ死ノ轉歸ヲ取レルハ多クハ此ノ時期ニ在リ

又本病ノ極期及ヒ減退期ニ當リ精神ノ溷濁ヲ來シタルモノニ在リテハ舌及ヒ手指時トシテハ前膊ノ震顫著シキモノアリ又重症ニアリテハ臆跳動撮空摸牀等腦官能ノ重篤ナル中毒現象ヲ來セシモノ及ヒ恢復期ニ入りテモ歩行ノ蹣跚タルモノ間之アリキ

以上ノ神經症狀ハ解熱ト共ニ漸次輕快スルヲ普通トスルモ重症患者中稀ニ恢復期ノ初メニ至ルモ尙ホ精神昏嗜セルモノアリ廣島豫備病院ニ於テ三十八名ニ對スル腦症狀ノ輕重ヲ區別シタル成績次ノ如シ

著シキ腦症狀ヲ呈セサリシモノ

一四

日沒或ハ夜間ニ於テノミ譫語ヲ發シ晝間ニナキモノ

七

晝夜共ニ高聲或ハ喃々譫語ヲ發セシモノ

一三

躁狂狀態ヲ呈セシモノ

四

體溫昇騰カ神經系統ニ對シ有害ナル影響ヲ與フルハ爭フヘカラサル事實ナリト雖モ熱ノ高低ト神經障礙ノ輕重トハ必シモ相併行セス蓋シ比較的熱度低キモ腦症狀甚タシキアリ又初期既ニ體溫四十度内外ニ昇騰スルモ腦症輕キアリ或ハ既ニ解熱スルモ尙ホ喃々譫語ヲ發スルモノアリシ

カ如シ

### 乙 知 覺

皮膚ノ知覺過敏ハ往々極期ニ於テ下肢或ハ趾ノ疼痛ヲ訴ヘタルモノアルモ著シカラヌ又腰痛ヲ訴フルモノ十三名廣島豫備病院アリ皆ナ輕度ニシテ鈍痛ナリ又恢復期ニ於テ足尖ノ冷感足背及ヒ足趾ニ刺痛アリシモノ踣踞ノ際前脛骨部疼痛アリシモノアリ上肢ニ於テモ亦往々肘關節手關節稀ニハ肩胛關節痛ヲ訴ヘシモ他覺的ニハ毫モ著變ヲ認メス下肢ニ於テハ上肢ニ比シ關節痛ヲ訴フルモノ稍多ク就中膝關節痛最モ多數ヲ占メ股關節痛ヲ訴ヘシハ少數ニシテ上肢ニ於ケルカ如ク他覺的ニハ毫モ著變ヲ認メサリシ又軀幹ノ諸筋腓腸筋大腿伸筋ニ於テ知覺過敏ヲ訴ヘシモノアリサレト一部ノ患者ニアリテハ全ク脚氣合併ノ結果ナリキ本病經過中或ハ恢復期ニ於テ神經痛ヲ訴ヘシモノ少數例アリ

### 丙 反 射

極期ニ於テ腱反射ノ亢進セシモノ多ク腹筋及ヒ舉拳筋稀ニハ足蹠反射ノ亢進セシモノアリシモ著シキ異常ヲ認メサルヲ常トセリ

### 丁 眼

眼球及ヒ眼瞼結膜ハ本病ノ輕重ニ差ナク每常稍著シク充血シ往々角膜周擁充血ノ觀ヲ呈シタルモノアリ時トシテハ結膜ニ多少浮腫ヲ來シ眼球運動ニヨリ皺襞ヲ生セシモノアリ

### 戊 耳

耳鳴及ヒ重聽ハ多數患者ノ訴フル所ニシテ病初又ハ極期ノ半ニ於テ始マリ解熱スルモ尙ホ永ク持續シ凡ソ一週後ニ至リテ漸ク消失スルヲ常トス其ノ甚タシキモノニ至リテハ解熱後二十日ヲ經過スルモ依然重聽ヲ訴ヘ而カモ耳鳴ハ重聽ニ比シテ早ク消失スルモノ多ク恢復期ニ至リ中耳炎ヲ惹起シ鼓膜穿孔シテ膿ノ排出ヲ來シタルモノ僅ニ一例ニシテ鼻咽腔及ヒ粘膜ハ多數ノ患者ニ於テ充血ヲ認メタレトモ多クハ輕度ナリ耳鳴ハ比較的早期ニ消失シタリシモ重聽ハ漸次經過ト共ニ輕快セリ

第四 譫語幻覺逸走ヲ企テタル例

第八師團彈藥大隊砲兵第一縱列 豫備砲兵輪卒 廣瀬金太郎 年齡二十二

明治三十七年十月七日黑溝壑及ヒ奉天戰ニ參與同三十八年三月九日角膜表層濁ニテ入院土佐

丸ニテ後送四月六日大阪港上陸大阪豫備病院ニ轉入船中ニ於テ身體倦怠食思振ハス

四月八日 頭痛咳嗽アリ體温三十九度左胸節變ヲ聽ク

同月九日 腹部壓ニ過敏

同月十一日 顔面潮紅無熱狀口唇乾燥舌苔口渴アリ胸部一般乾性囉音ヲ呈シ胸背部ニ蕁蕁疹ヲ發ス脾腫ヲ觸ル神識尙ホ健サレシ重聽アリ下脚疼痛ヲ訴フ此ノ日傳染病室ニ收容體温四十度二分脈搏百六至

同月十二日 惡心嘔吐アリ

同月十四日 蕁蕁疹ハ胸腹背腰四肢頸部ニ至ルマテ多發シ一部消滅シテ痕ヲ留ムルニ過キス胸節變アリ神識濁シ重聽強シ往々譫語ヲ發シ夜間病牀ヲ離レ歩行セムトス脈搏百八至復性ヲ呈ス

同月十六日 幻覺アリ時々病牀ヲ離レ歩行セムトス

同月二十日 諸症輕快恢復期ニ入ル

同月二十四日 胸部尙ホ嘔吼音アリ

五月五日 神識明瞭腹部表皮落屑シ發汗アリ脾腫尙ホ存ス  
同月二十六日 左耳下腺部疼痛アリ腫起ヲ始ムキダール反應陰性午後耳下腺炎ハ化膿セヌレテ消退衰弱漸次恢復  
七月三日 全治退院

第五 精神瀾濁嘔吐衰弱死亡ノ例

戰地陸軍建築部第四建築班 軍役夫 谷本太吉 年齡四十二年十一月

幼時麻疹種痘ヲ經過ス明治三十九年二月一日清國奉天附近ニ於テ勤務中脚氣ニ罹リ二十一日第

二關東陸軍病院ニ入院二十四日第一關東陸軍病院ニ後送三月六日病院船橫濱丸ニテ轉送

三月十日 航海中惡寒發熱三十九度咽頭加答兒アリ

同月十一日 廣島豫備病院竹屋分院ニ收容當時體温三十九度五分脈搏九十八至頭痛強ク僅ニ腰

痛アリ胃部壓痛咳嗽アリ

同月十六日 無數ノ發疹ヲ認ム

同月十八日 江波分院ニ轉入

同月十九日 應答明確ナレトモ四肢ニ震頭アリ顔面潮紅結膜充血耳鳴重聽アリ鼻汁ニ血液ヲ混

ス舌ハ灰白苔ヲ衣シ震頭ス咽頭充血アリ時々咳嗽喀痰アリ胸部右側ニ乾性囉音ヲ聽ク腹部輕度

ノ膨滿アリ脾腫ヲ觸知ス發疹ハ四肢背部及ヒ頸部ニ最も多シ疹ハ指壓ニ由リ消滅セサルモノアリ大サハ帽針頭大色ハ蒼白赤色乃至暗紅色

同月二十日 疹ハ前胸ニ於テ出血性トナリ軟口蓋部懸雍垂ノ兩側ニ數多ノ出血點(内疹ヲシキ)ヲ

生シ其ノ他前胸處々ニ血症ヲ生ス昨日檢尿微量ノ蛋白アリ

同月二十三日 疹ハ登、出血性トナリ溢血症モ増加ス尙ホ輕度ノ譫語ヲ發ス

同月二十四日 腸管扶斯及ヒ「バラチフス」ニ對スル血清凝集反應ハ共ニ陰性

同月二十五日 體温常度ニ復シ嗜眠ス

同月二十六日 昨夜嘔吐アリ食思缺ク

同月二十七日 昨夜嘔吐頻發精神稍瀟  
 同月二十八日 軀幹ノ疹ハ全ク消散スルモ四肢ノ疹ハ退セズ上膊ニハ皮膚ノ批棘狀落屑ヲ認  
 ▲脾腫去ル檢尿スルニ痕跡ノ蛋白アリ圓柱及ヒ腎上皮ヲ含有セズ  
 同月三十日 脈搏細小八十二至體溫三十五度五分心音微弱顔面及ヒ手指ハ潮紅ス舌ハ乾燥シ食  
 思缺損ス時々嘔意ヲ催シ少量ノ液體ヲ嚥下セザルモ直ニ吐ス疹ハ刻々消散シ僅ニ四肢末部ニ  
 存スルノミ  
 同月三十一日 脈搏細小九十二至體溫三十五度九分時々吃逆アリ嘔意嘔吐尙ホ鎮靜セス肢末ハ  
 紫藍色ヲ呈シ精神瀟瀟シ應答不活潑ニシテ衰弱益々加ハル  
 四月一日 脈搏增加  
 同月二日 肢末稍厥冷心機微弱  
 同月三日 午前一時三十五分衰弱ニ陥リ斃ル

### 第八 呼吸器

本病ハ毎ニ呼吸器各部ノ症狀ヲ伴フモノニシテ今マ之ヲ列記スレハ次ノ如シ

#### 甲 鼻

大多數ノ患者ニ於テハ輕度ノ鼻粘膜充血ヲ認メ又時トシテ輕度ノ浮腫ヲ來タセリト雖モ分泌甚  
 タシカラス又往々病症及ヒ經過中融血ヲ來シタル者アリ此ノ場合ニ於テハ粘膜ノ充血稍著明ナ  
 リシカ如シ

#### 乙 喉頭

少數ノ重症患者ニ於テ咳嗽頻發少量ノ喀痰アリ少シク聲啞ヲ來セシ等加答兒症候ヲ呈セシモノ

アリシカ喉頭潰瘍ノ如キ著シキ變化ヲ惹起セシモノナカリキ  
 タルシニマンハ一千八百七十九年伯林ニ於ケル發疹室扶斯流行ノ際喉頭疾患ヲ伴ヒタル全患者  
 ノ四〇%ニ於テ喉頭潰瘍ヲ認メ且ツ腸室扶斯ニ於ケルヨリモ著シク多數ナリト謂ヘリ然ルニ本  
 戰役ニ於テハ喉頭症狀ハ比較的輕症ナルモノナリキ

#### 丙 肺及氣管支

每常輕重ノ氣管支加答兒ヲ起シ發病初期ニ於テハ概シテ強キ咳嗽刺戟アリ第五日乃至第六日ニ  
 於テ始メテ胸部ニ粗烈ナル呼吸音笛聲啞音アリ第七日ヨリ十二日ニ互リ往々大小水泡音ヲ兩  
 側或ハ一側ノ胸部後下方ニ聽取シ又限局スル部位ニ有響性水泡音アリ喀痰ハ概シテ少ナクシテ  
 粘液様痰ニ血液ヲ混シタルモノアリ多クハ減退期ニ入り漸次輕減セシト雖モ恢復期ノ初メニ至  
 ルモ本症尙ホ存シ解熱後概ネ四日乃至一週以內ニ消失セリ而シテ少數例ニ於テハ極期ノ半或ハ  
 其ノ後半ニ至リ神識漸ク朦朧シ假令ヒ痰痰劑ヲ處方スルモ奏效著シカラス心臟機能稍沈衰シ爲  
 メニ加答兒症狀ハ漸次彌蔓性トナリ胸部到ル處笛聲ヲ聽取ス此ノ際單獨ノ氣管支炎ニ止マラス  
 シテ聽診上背部ニ大小水泡音アリ打診上濁音ヲ呈シ小葉性肺炎ヲ證明シタルモノアリ左ニ廣島  
 豫備病院ノ調査ニ係ル三十八名ノ患者ニ就キ加答兒症狀ノ有無ヲ區別シタル成績ヲ表示ス

氣管支加答兒ヲ證明セシモノ	二十名	五五六%
肺炎ヲ證明セシモノ	六名	一六七%
氣管支加答兒ヲ證明セサルモノ	十名	二七七%
不明ノモノ	二名	

左ニ氣管支炎明カナル一例ヲ掲ク

第六 發疹多發、蛋白尿、氣管支炎ノ例

第二師團第九補助輸卒隊

須田金作

年齡二十四年八月

幼時種痘麻疹ヲ經過シ管テ著患ナシ  
 明治三十八年六月二十五日法庫門ニ於テ二回惡寒ニ次テ俄然發熱ス之ヨリ先キ六月十五日ヨリ  
 發疹室扶斯患者須田幸作ノ看護ヲナセリト云フ  
 六月二十六日 受診當時體格榮養中等舌白苔ヲ衣シ口内稍乾燥食慾大ニ不振頭重頭痛耳鳴アリ  
 呼吸促進時々心悸亢進アリ體温三十九度八分脈搏百零二至眼球結膜輕度ニ充血シ胸腹竝ニ頸部  
 四肢及ヒ背部ニ帽針頭大乃至豌豆大ニシテ指壓ニ依リ消褪スル赤色類圓形ノ疹ヲ認ム内ニ出血  
 性ノモノアリ腹部稍緊縮シ雷鳴ヲ聽ク脾ハ稍腫大スルモ肝臟ニ變化ナシ腰部及ヒ膝關節部ニ疼  
 痛ヲ訴フ  
 同月二十七日 顔面潮紅浮腫狀ヲ呈シ脈搏百零二至疹ハ顔面ニモ波及シ數箇ヲ散見ス全身中  
 毛胸腹部境界ニ多生スルヲ認メ稍發汗ス  
 同月二十九日 脈搏百至ニシテ中等大疹ハ胸腹部ニ多ク四肢之ニ次ク胸部時々首聲ヲ聽取シ脾  
 腫著明ナリ  
 同月三十日 脈搏百十六至咽頭口蓋粘膜炎充血疹ハ帽針頭大乃至麻實大ニシテ紫紅色及ヒ淡粉  
 色ヲ呈シ指壓ニヨリ消褪セス尿ハ琥珀黃色ニシテ少量ノ蛋白ヲ認ム  
 七月二日 脈搏百十二至皮疹ハ漸次消褪シ淡紫褐色ヲ呈シ其ノ數大ニ減少シ粘膜炎充血モ亦輕度  
 トナル  
 同月三日 脈搏九十八至舌ハ稍苔ヲ衣シ脾臟ヲ觸知セス胸部ニ時々笛聲ヲ聽取ス腹部異常ヲ認  
 メス下痢三回  
 同月四日 脈搏八十四至皮疹ハ消褪シテ殆ト認メ難ク胸部ニ乾性水泡音笛聲ヲ聽取ス應答明瞭  
 耳鳴重聽輕頭痛アリ尿中ノ蛋白消失ス下痢二回  
 同月七日 脈搏八十至左肩胛下部ニ乾性水泡音ヲ聽取スル他異常ヲ認メス耳鳴尙ホ存ス

同月九日 脈搏六十至舌ハ帶褐白色ノ苔ヲ被リ食慾稍振ヒ僅ニ咳嗽喀痰アリ  
 同月十一日 脈搏六十六至僅ニ耳鳴ヲ存ス  
 同月十三日 脈搏六十三至其ノ他異常ナシ  
 同月十五日 著變ナク漸次輕快

第九 消化器

甲 口腔及咽頭

口腔殊ニ軟口蓋及ヒ咽頭粘膜炎初メ多少充血腫脹シ漸次稍乾燥シ粘稠ナル粘液ヲ被ルニ至ル此  
 ノ他少數ノ患者ニ於テハ尙ホ扁桃腺ノ腫大ヲ認メ又恢復期ニ耳下腺炎ヲ發シ化膿ニ至ラスシテ  
 消散セシモノ一例アリ

乙 舌

舌ハ初期ニ濕ヒ白色或ハ灰白色又ハ褐色ノ苔ヲ被ル又初期既ニ舌ノ中央部若クハ全部乾燥スル  
 モノアリ殊ニ極期ニ神識侵サレタルモノニ於テ此ノ事多シ而シテ煤苔ヲ衣シ挺出ノ際震顫アリ  
 齒牙口唇ニ煤色ノ痂ヲ附著シ口唇ノ出血ヲ起スコト稀ナラス解熱期ニ至レハ漸次再ヒ濕潤シ來  
 リ舌苔ハ多クハ舌端ヨリ剝脫シ尋テ全背面ニ及フカ如シ尙ホ病初ヨリ恢復期ノ始メニ至ルマテ  
 口臭アルモノアリ

丙 胃

發病初期ニ於テ胃部ノ按壓ニヨリ過敏ヲ訴ヘシモノアリ食慾不振及ヒ煩渴ハ殆ト初期ヨリノ必

發症狀ニシテ惡心ヲ伴フモノ少ナカラス又少數例ニ於テハ數回ノ嘔吐ヲ來セシモノアリ稀ニハ極期又ハ恢復期ニ至ルモ尙ホ時々嘔吐ヲ起セシモノアリ二三ノ患者ハ蛔蟲ヲ吐出シタリ或ハ經過中胃部停滯壓重ノ感ヲ訴フルモノ吃逆ヲ發シタルモノアリ

### 丁 腸

腹部ハ一般ニ尋常或ハ稍陷沒スルモ時トシテ膨滿スルモノアリ然レトモ腸室扶斯ニ於テ屢遭遇スルカ如ク高度ナラス鼓腸ハ主トシテ重症時トシテ中等症ノ患者ニ於テ認ムル所ニシテ或ハ初期或ハ極期ノ後半ニ於テ現ハレ其ノ時期一定セス又鼓腸ニ兼ネテ往々下痢ヲ惱ムモノアルモ下痢ヲ來スモノ常ニ鼓腸ヲ伴ハス而カモ下痢ハ鼓腸ニ前驅セサリシヲ例トシ多クハ便秘ノ傾向ヲ示スコト次ニ述フルカ如シ蓋シ鼓腸ハ稍重篤ナル全身中毒ノ結果腸壁筋肉ノ痙攣ニ因スルモノナルヘシ斯ノ如ク輕度或ハ中等度ノ膨滿ヲ來セシモノニ於テハ腹部按摩ノ際虞兒音ヲ呈シ又同時ニ輕度ノ知覺過敏ヲ訴フルモノアリキ然レトモ腸室扶斯ニ於ケルカ如ク常ニ廻盲部ニ限局スルコトナク或ハS字狀部或ハ臍下部等ニ顯ハレ部位決シテ一定セス此ノ他腹水ヲ證明シタルモノアリシモ脚氣一分症トシテ來リタルニ過キス

### 戊 肝 臟

臨牀上常態ナリトハ成書ノ記載スル所ナルモ大阪豫備病院ニ於テハ往々極期ニ於テ脾腫ト共ニ多少肝臟ノ腫大アルヲ認メ又廣島豫備病院ニ於テハ肝臟腫大アリシモノ三十八名中七名(一八四%)ヲ舉ケ内二名ハ脚氣併發患者ニシテ全身高度ノ浮腫アリシモノ他ノ五名ハ孰レモ極期ニ於テ

### 己 便 通

中等度ノ腫大ヲ證明シタリ其ノ他小倉仙臺ノ豫備病院雅姐崗舎營病院ノ如キ又各一例ヲ報告セリ而シテ編者ノ調査セル病牀日誌ノ記載ニ見ルニ三十四名中確實ニ腫大ヲ認メタルモノ八名(二三%)アリキ而カモ黃疸ヲ惹起シタルモノナシ

全病期間便秘ノ傾向アリ隔三日乃至四日ニ一回排便アリ甚タシキハ長日間隔里設林洗腸ヲ連用シタル者アリ唯少數例ニ下痢ヲ認メタリ而シテ廣島豫備病院ニテハ便秘ヲ持續性便秘持續性下痢不定便秘軟便ノ四種ニ區別シテ次ノ如ク調査シタリ

- (イ) 全經過ヲ通シテ便秘シ洗腸ニヨルカ或ハ自然ニ排便スルモ硬便ニシテ隔日若クハ二、三、四日ニ一回ノ便通アリシモノ十七名ノ多數ニ上レリ
- (ロ) 全經過中軟質或ハ水様便交來リ極期ノ前半ニ於テ軟便後半ニ於テ水様便ヲ排泄シ或ハ初メ水様便後チ便秘若クハ軟便ヲ排泄スル等一定セサルモノ八名アリ
- (ハ) 全經過ヲ通シテ下痢便ヲ排泄セシモノ即チ持續性下痢ノ者六名アリ
- (ニ) 全經過ヲ通シテ泥狀軟便ヲ排泄セシモノ六名ハ爹兒様便ヲ排泄シ腸出血ト認メ得ヘキモノ一名アリ

要スルニ持續性便秘者ハ持續下痢性及ヒ軟便ニ比シテ多キコト殆ト三倍ニシテ不定便者ニ比スレハ二倍ナリトス而シテ下痢ハ軟便排泄ノ場合ニ於テハ便通一日二回稀ニハ五回ニ及ヒタルモノアリ而シテ解熱後即チ恢復期ノ初メニ於テハ常便或ハ便秘スルモ亦軟便稀ニ下痢便ヲ漏ラセシモノアリキ



便ノ性状 下痢便ハ水様或ハ稀粥様ニシテ鮮黄色乃至淡黄色或ハ帶褐色ヲ呈シ泡沫ヲ認メス粘液含量貧少ナリ軟便或ハ普通便ハ黄色灰白黄色帶黄褐色或ハ褐色ヲ呈シ粥狀或ハ成形質ナリ孰レノ場合ヲ問ハス腸瘰癧ニ於ケルカ如ク「アンモニア」惡臭ナク又黄綠色ナル豌豆羹便ヲ漏ラセシモノナシ

### 第十 脾臟腫大

#### 甲 脾腫ノ多寡

本病ノ脾腫ニ就テハ諸家ノ報告歸一セスクルシユマンハ重症及ヒ中等症ニアリテハ大多數ニ之ヲ證明シ輕症ニアリテモ適切ノ時期ニ檢スル時ハ之ヲ認ムルヲ得ヘシト云ヘリ而シテ此ノ役大阪豫備病院ニテハ悉ク脾腫ヲ證明シ廣島豫備病院ニ於テハ左ノ如シ

脾腫不明ノモノ

四名

打診上脾腫アリト假定シタルモノ

八名

二三・五%

觸診上脾腫ヲ證明シタルモノ

十七名

五〇・〇%

打診上脾腫ヲ證明シ能ハサルモノ

九名

二六・五%

又小倉豫備病院ニ於テハ半數ヲ仙臺豫備病院雅姐崗舎營病院ニ於テハ全數ニ證明シ編者ノ病牀日誌ニ依リ調査シタル三十四例中ニハ腫大セル者二十四例(七〇・五八%)ヲ算シタリ之ヲ要スルニ本戰役ニ於ケル例證ノ大多數ハ著明ナル脾腫ヲ證明シタルカ如シ

#### 乙 脾腫發現ノ時期

クルシユマンニ據レハ發熱第一日ニ於テ已ニ之ヲ檢知シ得タルモノアリ又第一週以内ニ收容セシ患者ノ七十例中十七例(二四・二九%)ハ之ヲ觸知セス爾餘ノ五十三例ニ於テハ第三日乃至第五日ニ於テ證明シ得タルモノ多カリシト此ノ役ノ例證中其ノ記載明確ナルモノ五十七名ニ於テ調査スルニ次表ノ如シ

病日	患者數	病日	患者數
第一日	三	第九日	四
第二日	一	第十日	二
第三日	一	第十一日	二
第四日	八	第十二日	二
第五日	七	計	三二
第六日	二		

本表ニ依レハ早キハ第一病日遅キハ第十三病日ニ於テ證明シ得タルモノニシテ就中第四病日ヨリ第八病日ニ互リテ起リシモノ最モ多數ヲ占メタリ

#### 丙 脾腫消失時期ト解熱時期トノ關係

クルシユマンニ據レハ第二週ノ始メ或ハ其ノ半ハニ於テ觸診上既ニ脾腫ヲ證明シ能ハサルモノ多ク合併症等特別ノ原因アルニアラサレハ恢復期ニ至ルマテ依然トシテ顯著ノ脾腫ヲ證明スルコトナシト云フ然ルニ此ノ役大坂豫備病院ノ調査ニヨレハ減退期ノ初メニ觸レサルニ至リシハ僅ニ一名ニシテ爾餘ノモノハ恢復期ニ至ルモ尙ホ依然トシテ存在シ概シテ一週乃至十日間長キ

ハ三週ニ及フ者アリシト云フ又廣島豫備病院ノ調査ニ依レハ左表ノ如クニシテ兩者略同一ノ成績ヲ得タリ

- 解熱ト共ニ脾腫ヲ證明シ能ハサルモノ 二
- 解熱前ニ脾腫ヲ證明シ能ハサルモノ 一
- 解熱後尙ホ脾腫ヲ證明シタルモノ 一〇
- 初メヨリ脾腫ナキモノ及ヒ死亡不明患者 一六

### 丁 脾腫ノ大サ及ヒ硬度

臨牀上觸知シ得タル脾腫ノ大サハ中等大ニシテ半臥位或ハ仰臥位ニ於テ深吸氣時ニ觸知スルコトヲ得又季肋ヨリ縁下二三指横徑ニ達スルモノアリ而シテ質多クハ正常或ハ弾力性ナレトモ時トシテ麻刺里亞白血病或ハ假性白血病ニ於ケル脾腫ノ如キ硬度ヲ有スルモノアリ又往々觸診ノ際脾腫ノ知覺過敏ヲ訴フルモノアリシ大阪豫備病院ニテハ脾腫ノ最大上界ハ第七肋骨下方季肋下約二指横徑ニ達スルモノアリ而シテ脾臟腫大ト病症輕重トノ關係ハ不明ナリシト云ヘリ

### 第十一 泌尿器

#### 甲 尿量

本病患者ノ尿量ハ諸多ノ熱性病ニ於ケルカ如ク極期ニアリテハ一般ニ減少シ時ニ一晝夜ノ全量五百二十立方仙迷ニ下降スルモノアリシモ七百五十立方仙迷内外ヲ普通トス然レトモグリージンゲル等ノ唱フル如ク一時性ニ尿量増加シ一千九百立方仙迷ニ達シタルモノアリ斯ノ如キ一時

的尿量増加ハ極期ノ終リ解熱期ニ於テ遭遇セシモノナリ其ノ他脚氣ヲ合併シタル患者ニアリテハ尿利僅ニ一、二回ニシテ一晝夜ノ全量漸ク二百四十立方仙迷ニ過キサルモノアリ極期ヨリ解熱期ニ移ルニ隨ヒ尿量漸次増加スルモ時トシテ解熱期或ハ恢復期ノ初メニ互リ尿量少シク減少シ漸次日ヲ追フテ持續的尿量増加ヲ來セシ場合アリ今マ大阪豫備病院ノ調査ニ係ル高熱時尿量減少シ解熱ニ向フヤ頓ニ尿ノ增多ヲ認メタル左ノ一例ヲ舉ク(證例第五參照)

病日	體温	尿量
第十一日	三九・七—三九・九	六〇〇・〇
第十二日	三九・〇—三九・五	九〇〇・〇
第十三日	三八・〇—三八・六	一一〇〇・〇
第十四日	三八・二—三七・二	一七〇〇・〇
第十五日	三七・五—三八・〇	一七〇〇・〇
第十六日	三八・六—三八・二	一〇五〇・〇
第十七日	三七・一—三六・五	一三〇〇・〇

#### 乙 尿ノ性状

極期ニ於テハ尿量ノ減少スルニ從ヒテ比重ヲ増加シ色ハ帶黃褐色乃至暗褐色ニシテ強酸性ヲ呈ス多クハ清澄ナレトモ稠厚ノモノハ尿酸鹽類ノ練瓦色沈渣ヲ生スルコトアリ又溷濁ヲ呈シタルモノアリ鏡檢上膀胱上皮細胞白血球、類圓柱ヲ認メシカ如シ而シテ廣島豫備病院ニテ少量ノ蛋白ヲ證明シタル尿ニ於テハ毎回鏡檢ヲ行ヒシモ遂ニ赤血球圓柱等ヲ認メス極期ノ患者十名ニ就キ

蛋白及ヒ糖ヲ檢スルニ(ヘルレル環輪試驗煮沸試驗或ハ醋酸黃色血濁鹽試驗ニヨル)六名ノ蛋白尿ヲ證明セリ然レトモ所謂熱性蛋白ニシテ痕跡ヲ認ムルニ過キス又脚氣ヲ合併シ浮腫甚タシキ一名ニ在リテハ比較的少量ノ蛋白ヲ檢出セシモ未タエスバツハノ蛋白計ニヨリ定量シ得ルニ至ラス糖ノ試驗ハ之ニ反シ悉ク陰性ニ終レリ此ノ他極期ニ於ケル患者十六名ニ就キ「デアツォ」反應ヲ試ミシニ反應陽性ナルモノ半數ヲ見又膀胱加答兒ハ尿閉ヲ來シタル患者ノ二名ニ於テ認メタリト大阪豫備病院ニ於テハ重症及ヒ中等症患者ノ有熱期ニ於テ檢尿ノ結果第二週ノ終リ及ヒ第三週ノ初メニ熱性蛋白尿ヲ認メ解熱後一日乃至五日ニシテ全ク消失シ腎臟炎ヲ繼發シタルモノハ之ヲ認メス而シテ二例ノ成績ハ左ノ如シ

區分	姓名		體溫	尿蛋白	糖	「デアツォ」反應	「インザカン」反應	鏡下所見
	谷本	太吉						
第十一日	乃至三九・九	三九・七	〇・二六	濃茶褐色	強	少	著	陰性
第二十日	解熱後	第三日後	〇・二五	黃褐色	強	陰	多	陰性
第十六日	乃至三八・八	三八・一	〇・二〇	濃厚褐色	強	微	著	陰性
第二十三日	解熱後	第五日後		稀薄黃色	弱	ナ	ナ	圓柱上皮等ナシ

### 第四章 細菌學的研究

#### 甲 病原體ノ檢索

此ノ役廣島豫備病院ニ於テ本病調査委員ヲ設ケタルハ上述ノ如シ而シテ其ノ細菌學的部門ヲ擔任シタル堀内次雄二等軍醫ハ先ツ本症カ腸室扶斯又ハ「バラチフス」ノ單ニ發疹ヲ多發シタルモノニアラサルコトヲ細菌學的ニ證明シ次テ其ノ病原菌ノ檢索ニ幾多ノ研究ヲ重ネタリ其ノ結果氏ハ從來世ノ唱導セル發疹室扶斯病原體ト看做サレタルモノ殊ニゴツチユリヒノ「アビロゾーマ」ハ一モ檢出セザシカ遠藤「フクシン」寒天及ヒドリガルスキークオンラーデ培養基上ニ糞便培養ヲ反覆試驗セル際偶「一種特異ノコロニー」ヲ發見セリ乃チ遠藤培養基上ニ在リテ初メハ無色ニシテ後チ漸次淡紅色ニ變スルカ若クハ類青色ノコロニーヲ生シ恰モ「チフス」菌或ハ「バラチフス」菌ノ如シト雖モ免疫血清ニ對スル反應ハ全ク此等ノ菌ニアラサルコトヲ明カニセリ而シテ當該患者及ヒ同類患者ノ血清或ハ發泡液ノ五十倍百倍時トシテ五百倍ノ稀釋ニ於テモ三十分間ノ後チ每常著明ノ特異凝集反應ヲ呈スルモ健康者及ヒ健康動物血清ニアリテハ全然反應ヲ呈スルコトナキヲ證明シ其ノ形態學的並ニ生物學的性質ヲ精査シテ一種特異ノ桿菌ナルコトヲ認メタリ而シテ氏ハ又時ニ本病患者血清ノ五十倍稀釋液ヲ以テ「チフス」菌及ヒ「バラチフス」菌ニ對シ二時間ニシテ完全ニ凝集スルモノヲ實驗セシコトアリシモ諸種ノ方法ニヨリ「チフス」菌並ニ「バラチフス」菌ヲ發見スルコト能ハサリシト云フ故ニ氏ハ此ノ現象ヲ特異細菌ノ感染ニ因リ上記兩菌ニ對シ種族の反應ヲ現ハシタル結果ニアラサルヤヲ疑ヒカステラニ「凝集素吸收試驗法」ヲ用ヒテ其ノ然ルヲ確認シ兩菌ニ對スル反應發現ノ理由ヲ解釋セリ而シテ同氏ノ報告中該菌ノ性質ニ關スル事項ヲ摘録スレハ次ノ如シ

本菌ハ形狀及ヒ大小概シテバラチフス菌ニ類似スト雖モ「コロニー」中ニ於テモ其ノ大小形狀甚タ不同ニシテ最小及ヒ最大ノ差殆ト二倍ニ達スルモノアリ

一般ニ兩端鈍圓トナル小桿菌ナリト雖モ時トシテ宛然小重複球菌ノ如キ外觀ヲ有シ或ハ大小不同單球菌ノ狀ヲ呈スルモノアリ染色検査上多クハ全質均同ニ著色シ唯、稀ニ多少極染色性ヲ呈スルモノアリ但シ遠藤氏培養基上ノ「コロニー」ニハ中等大絲條形成アリ

寒天培養ニ於テ其ノ平面上ニ發育シタルモノト凝集水中ノ者ト形狀ニ大差ヲ認メス長絲狀ヲ呈スルモノ殆ト無クシテ多クハ孤立セリ「マウス」又ハ「モルモット」ニ接種シ其ノ心臓及ヒ脾臟内ヨリ直接ニ採取標本ヲ作ルトキハ其ノ大サ稍、均同ナリ

運動頗ル活潑ニシテ其ノ強サハ之ヲ「チフス」菌及ヒ「バラチフス」菌ニ比較スヘキモ彼等ノ如ク絲狀ヲ呈スルモノ少ナキヲ以テ自ら其ノ運動ノ狀ヲ異ニス

但シ二十四時間培養ニ於テモ其ノ凝集水中ニハ凝塊ヲ形成シ既ニ運動ノ甚タシク減弱シタルモノヲ認ム

人工培養基上ノ性質

- (1) 普通寒天斜面上ノ菌苔ハ殆ト「チフス」或ハ「バラチフス」B菌ニ一致ス
- (2) 「グリセリン」寒天上ニモ能ク發育ス
- (3) 肉汁培養能ク發育シテ全液均同ニ混濁シ被膜及ヒ沈降物ヲ生セス
- (4) 遠藤氏「フクシン」培養基上ニ於テ第三日目「マタハ」「コロニー」ノ中心三分ノ二ハ淡桃色邊緣三分ノ一ハ殆ト無色細硝子顆粒狀ニシテ邊緣ハ鋸齒狀ナリ爾後漸次全聚落赤色トナルモ拆出シタル「フクシン」ノ光輝ヲ發スルニ至ルコトナシ

(5) 牛乳培養

通常二週間以上ヲ經過スルモ凝固セスト雖モ極メテ稀ニ例外トシテ三四週日ノ後ニ凝固シタルコトアリ

- (6) 「ペプトン」水 室温及ヒ血温ニ於テ共ニ能ク發育ス
- (7) 「デキストローゼ」加寒天 強ク瓦斯ヲ產生ス
- (8) 「インドール」反應 「ウキツテ」及ヒ「グーヘ」プトンヲ用フルニ唯、弱度ニ「インドール」ヲ產生ス
- (9) 膠質 ヲ溶解セス穿刺線ニ沿フテ能ク發育ス平板培養上表在「コロニー」ハ周邊不正ニシテ菲薄帶青灰白色半透明ナリ
- (10) 馬鈴薯 其ノ面濕潤ニシテ帶微黃灰白色ノ稍、隆起セル菌苔ヲ生ス四十時間以上ヲ經過スレハ履、基質ヲ淡紫青色ニ著色ス
- (11) 「ラクトローゼ」加「ラクムス」グラチン「水」 二十時間ニシテ赤色ヲ呈シ一週日ニ至ルマテ變セス
- (12) 「マンニット」加「ラクムス」グラチン「水」 二十時間ニシテ赤色ヲ呈シ一週日ニ至ルモ變色セス
- (13) 「マルトローゼ」加「ラクムス」グラチン「水」 二十時間ニシテ赤色ヲ呈シ一週日ニ至ルモ變色セス
- (14) 「サツカローゼ」加「ラクムス」グラチン「水」 初メ一旦變色スルモ四乃至五日後ニハ上層ノミ赤色ニシテ以下ノ層ハ漸次舊色即チ青色ニ變ス
- (15) 「デキストローゼ」加「ラクムス」グラチン「水」 二十時間後ニハ赤色トナリ一週日ヲ經ルモ變色セス
- (16) 「ラクムス」乳清 初メハ全液混濁シテ帶青灰色ヲ呈シ第三日ニハ稍、青色ノ度ヲ増シ次テ全層半透明トナリ極メテ淡紫灰白色トナリ第七日以後ニ於テハ全層半透明淡青色トナリ爾後二週日ヲ經ルモ變化ナシ

(17) ノイトラールロート寒天 四十八時間ヲ經ルモ變色セス瓦斯ヲ產生ス  
 (18) マンニツトストローゼ、ラクムス、培養基ヲ三十乃至四十時間ニ解器内ニ於テ凝固セシメ酸ヲ產生シテ濃赤色ヲ呈ス  
 色素ノ關係

諸般ノ「アリニン」色素ニ依テ能ク著色スグラム氏法ニ依リ脱色ス  
 溫度及ヒ酸素ノ要否室溫及ヒ血溫ニ於テ共ニ能ク發育ス  
 「フアクルタチーフ、アナエローベ」ナリ

動物試驗(各種動物ノ詳細ナル試驗ハ第二回報告ニ譲ル)

本菌寒天培養二十分一白金耳ヲ「マウス」ノ腹腔ニ注射スレハ三十時間以内ニ又十分一白金耳ナレハ九時間内ニ斃ル

「モルモット」抗抵抗強キカ如シ一白金耳ヲ腹腔ニ注射スルモ多クハ斃死セス二白金耳ニシテ多クハ三十時間内外ニ斃ル

家兎ハ二白金耳腹腔注射ニテ尙ホ斃死セス唯、熱發スルノミ然レトモ靜脈内ニ十分一白金耳ヲ送入スルトキハ十二時間ニシテ斃ル鳩ハ二乃至三白金耳ヲ腹腔ニ注射スルモ唯、熱發スルノミ

動物試驗

動物	番號	部位	位置	量	結果
「マウス」	1	腹	腔	白金耳	二十時間以内死

同	同	同	同	同	二十時間以内死
同	2	同	同	同	二十四—三十分以内死
同	3	同	同	同	二十四—三十分以内死

斃死動物ノ解剖所見

「マウス」及ヒ「モルモット」

腹部膨脹シテ腸管赤黒色ヲ呈ス出血ナシ腹膜ニハ靜脈非常ニ充血腹腔ニハ多量ノ液諸臟器ニハ著シキ異常ナシ鼠ノ脾ハ稍、腫大セルモ「モルモット」ニハ脾腫著シカラス心臟血液及ヒ脾臟液中甚タ多數ノ菌ヲ認ム

「菌及ヒ類似菌ノ各種糖類ニ對スル關係ノ比較試驗

各菌ノ種々糖類加、ラクムス、ガラチン、ペプトン「水培養上ノ關係

(第一)乳糖加「ラクムス、ガラチン、ペプトン」水 (元色ハ透明美青色)

培養日數	菌種	市塚	石田	磯野	「パラチフス」	「チフス」	「ゴ」
一	日	變色セス	赤色ニ變ス 瓦斯泡沫ヲ生ス	變色セス	變色セス	變色セス	赤色ニ變ス 瓦斯泡沫ヲ生ス
三	日	赤色ニ變ス少シク 瓦斯泡沫ヲ生ス	同	同	同	同	同
七	日	同	同	同	同	同	同

(第二)マンニツト「加、ラクムス、ガラチン、ペプトン」水 (元色透明美青色)

一	日	赤色ニ變ス少シク 瓦斯泡沫ヲ生ス	赤色ニ變ス 瓦斯泡沫ヲ生ス	赤色ニ變ス 瓦斯泡沫ヲ生ス	赤色ニ變ス 瓦斯泡沫ヲ生ス	赤色ニ變ス 殆ト瓦斯ヲ見ス	赤色ニ變ス 多量ノ瓦斯ヲ生ス
三	日	同	同	同	同	同	同

七	日	同	前	同	前	同	前	同	前
一	日	同	前	同	前	同	前	同	前
三	日	同	前	同	前	同	前	同	前
七	日	同	前	同	前	同	前	同	前

(第三)「マルトール」加「ラクムス」グラチン、ペプトン「水」(元色透明美青色)

一	日	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同
三	日	同	同	同	同	同	同	同	同
七	日	同	同	同	同	同	同	同	同

(第四)葡萄糖加「ラクムス」グラチン、ペプトン「水」

一	日	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同	赤色ニ變ス	同
三	日	同	同	同	同	同	同	同	同
七	日	同	同	同	同	同	同	同	同

(第五)蔗糖加「ラクムス」グラチン、ペプトン「水」

一	日	赤色ニ變ス	同	變色セス	同	變色セス	同	變色セス	同
三	日	同	同	同	同	同	同	同	同
七	日	同	同	同	同	同	同	同	同

各菌ノ「ラクムス」乳糖「ブイオン」培養上ノ關係

一	日	淡青色ニシテ濁	同	上	帶青色ニシテ濁	全液濁シテ上層	殆ト透明極端青色	濁帶淡紅色
---	---	---------	---	---	---------	---------	----------	-------

二	日	上四分一層ハ半透	同	上	同	同前ナレトモ上層	同	上四分一層透明微
三	日	明帯青色其ノ以下	同	上	同	淡紫色ハ稍濃	同	紅色以下ハ濁ニ
六	日	黄色ヲ呈ス	同	上	同	全層淡紫色ナルコ	同	トナレトモ強シ
七	日	全層淡紫色トナル	同	上	同	全層淡紫色ナルコ	同	トナレトモ強シ
十	日	白色以下濁帶黄赤	同	上	同	全層殆ト青色最上	同	層ハ殊ニ著明
十一	日	以上三分二色赤透明	同	前	同	最上層ノミ少シク	同	透明以下濁シテ
二十	日	以下濁帶黄赤	同	前	同	全層淡青色ナリ	同	全層透明ニシテ赤

各菌ノ「ラクムス」乳清培養上ノ關係

一	日	濁ニシテ帶淡青	同	上	殆ト透明ニシテ淡	濁ニシテ帶淡紅
二	日	管底ニシテ沈降物	同	上	青色ヲ帶フ	色
三	日	ヲ生シシテ透明ニシ	同	上	全層殆ト強キ紅色	ニシテ上層ハ透明
六	日	淡紫灰白色ヲ呈ス	同	上	全層紅色ニシテ微	濁トナレリ
七	日	全層透明ニシテ	同	上	半透明ニシテ淡紅	色
十	日	淡青色	同	前	半透明ニシテ帶黄	淡紅色
十一	日	同	同	前	同	同
二十	日	半透明ニシテ微青	同	上	全層透明淡紅色	同

(1)市塚「菌」家兔免疫血清ノ各菌ニ對スル凝集力同名菌ニ對シ

時間	稀釋度	一時間	二時間	三時間	二十四時間
五	十	+	+	+	+
十	百	+	+	+	+
百	千	+	+	+	+
千	萬	+	+	+	+
萬	十萬	+	+	+	+
十萬	百萬	+	+	+	+
百萬	千萬	+	+	+	+
千萬	億	+	+	+	+
億	十億	+	+	+	+

對照試驗  
健康動物血清ノx菌ニ對スル凝集力

時間	稀釋度	一時間	二時間	三時間	二十四時間
三	十	+	+	+	+
十	百	+	+	+	+
百	千	+	+	+	+
千	萬	+	+	+	+
萬	十萬	+	+	+	+
十萬	百萬	+	+	+	+
百萬	千萬	+	+	+	+
千萬	億	+	+	+	+
億	十億	+	+	+	+

石田x菌ニ對シ

時間	稀釋度	二時間
百	+	
千	+	
萬	+	
十萬	+	
百萬	+	
千萬	+	
億	+	
十億	+	

時間	稀釋度	四時間	二十四時間
十	+	+	+
百	+	+	+
千	+	+	+
萬	+	+	+
十萬	+	+	+
百萬	+	+	+
千萬	+	+	+
億	+	+	+
十億	+	+	+

(2) 石田x菌家兔免疫血清凝集力  
對市塚x菌

時間	稀釋度	一時間	二時間	四時間
六	十	+	+	+
十	百	+	+	+
百	千	+	+	+
千	萬	+	+	+
萬	十萬	+	+	+
十萬	百萬	+	+	+
百萬	千萬	+	+	+
千萬	億	+	+	+
億	十億	+	+	+

對同名菌(石田x菌)

時間	稀釋度	一時間	二時間	四時間	二十四時間
百	+	+	+	+	+
千	+	+	+	+	+
萬	+	+	+	+	+
十萬	+	+	+	+	+
百萬	+	+	+	+	+
千萬	+	+	+	+	+
億	+	+	+	+	+
十億	+	+	+	+	+

對磯野菌本菌ハ不明熱性病者ノ尿及ヒ糞便中ヨリ獲タル菌ニシテx菌ニ類似セルモノイ

ンドール(ラ生セス)

發疹室扶斯 細菌學的研究

時間	稀釋度	時間	稀釋度
二時	百	二時	倍
四時	倍	四時	二百五十倍
二十四時	二百五十倍	二十四時	五百倍
	倍		千倍
	倍		二千五百倍
	倍		五千倍
	倍		一萬倍

(3) 磯野菌似而非 $\alpha$ 菌家兔免疫血清凝集力對同名菌

時間	稀釋度	時間	稀釋度
二時	百	二時	倍
四時	倍	四時	二百五十倍
二十四時	二百五十倍	二十四時	五百倍
	倍		千倍
	倍		二千五百倍
	倍		五千倍
	倍		一萬倍

對市塚 $\alpha$ 菌

時間	稀釋度	時間	稀釋度
二時	百	二時	倍
四時	倍	四時	二百五十倍
二十四時	二百五十倍	二十四時	五百倍
	倍		千倍
	倍		二千五百倍
	倍		五千倍
	倍		一萬倍

對石田 $\alpha$ 菌

時間	稀釋度	時間	稀釋度
二時	百	二時	倍
四時	倍	四時	二百五十倍
二十四時	二百五十倍	二十四時	五百倍
	倍		千倍
	倍		二千五百倍
	倍		五千倍
	倍		一萬倍

尙ホ氏ノ所説ニ據レハ本症ハ臨牀上發疹室扶斯ニ酷似スト雖モ反覆精査スルニ拘ハラズゴツチ  
 ニリヒノ所謂「アピロゾー」マ様物ヲ發見セサルヲ以テ姑ラク本病ヲ滿洲發疹熱ト稱シ而シテ其ノ  
 病原菌ヲ滿洲發疹熱菌ト命名シ所謂滿洲發疹熱ハ真正ナル發疹室扶斯ト其ノ本態ヲ一ニスルヤ  
 否ナヤハ未タ決定スル能ハストナシ從テ滿洲發疹熱菌カ一般ノ發疹室扶斯ノ原因タルヤ否ナヤ  
 モ後日ノ研究ヲ俟テ決定スヘキモノナリト云ヘリ

之ヲ要スルニ本症病原菌ノ研究ニ關シテハ尙ホ未タ確的ナル成績ヲ得スト雖モ現時學界ノ稍信  
 スヘキモノト認メタルゴツチ「アピロゾー」マ説ノ如キモ尙ホ古來臨牀家ノ認メテ以テ發  
 疹室扶斯ト稱シタルモノニ全然一致スルヤ否ナヤ疑フヘキノ餘地ナキニアラサルヲ以テ姑ラク  
 記シテ後日ノ資料ニ供ス

其ノ他川島軍醫正ハ大阪豫備病院收容ノ本病患者中二例ニ於テ尿尿及ヒ蓄微疹ニ就キ反覆腸室  
 扶斯菌ノ檢索ヲ施行シタルモ毎ニ陰性ニ終レリト報告セリ

乙 凝集反應檢査

編者ノ三十六例ノ病牀日誌ニ就キ調査スルところニ由レハキダール反應檢査ノ記載アルモノニ  
 十二例ニシテ孰レモ陰性ナリシ又堀内軍醫ハ三十四例ニ就テ其ノ經過中二回乃至四回凝集反應



検査ヲナシ左ノ成績ヲ得タリ而シテ其ノ陽性反應ヲ呈シタル理由トシテ氏ハ之ヲ種簇反應ニ説明ヲ求メタルハ已述ノ如シ  
一、腸室扶斯菌凝集反應検査  
四時間以内

- 百倍ニテ陽性ナルモノ
- 五十倍ニテ甫メテ陽性ナルモノ
- 同弱度陽性ナルモノ
- 二十五倍ニテ甫メテ陽性ナルモノ
- 他ハ盡ク陰性

(+) (±) (+) (+)  
— 三 — 二 —  
合計七名約二〇%

二、バラチフスB菌凝集反應検査

四時間以内

- 百倍ニテ甫メテ陽性ナルモノ
- 五十倍ニシテ甫メテ陽性ナルモノ
- 同弱度陽性ナルモノ
- 二十五倍ニテ甫メテ陽性ナルモノ
- 他ハ盡ク陰性

(+) (±) (+) (+)  
— 二 — 二 — 一 —  
合計七名約二〇%

又川島軍醫正ハ二十一例中四例バラチフスB菌ノ凝集反應ヲ検査シテ悉ク陰性トナリ全部ニ就キ一回乃至三回キダール反應ヲ檢シ特ニ再查ハ恢復期ニ施行シテ三例ハ陽性十八例ハ陰性ニ終レリト而シテ陽性反應ヲ呈シタルモノハ五十倍ニシテ氏ハ該反應アリシモ他ノ臨牀上ノ症候ヨ

リ推シ該病例ヲ腸室扶斯ニ算入セザリシト云ヘリ

第五章 病理解剖學的研究

本研究ニ關シテハ廣島豫備病院ニ於テ本病調査委員日本赤十字社救護班下方委員ノナシタル一ノ實驗アルニ過キス而カモ其ノ成績ハ從來諸家ノ實驗ニ一致シ特異ナル解剖的變化ヲ認ムル所ナシ左ニ其ノ成績ノ一般ヲ示スヘシ

第七 脚氣經過中ニ發生シタル例

第五師團架橋縱列 輻重輪卒 香川三次 年齡二十五 四年四月

血族遺傳ノ證明ナシ生來健全種痘四回麻疹及ヒ著患ヲ覺エス明治三十七年六月二十五日出征以來下肢浮腫倦怠ヲ來シ翌三十八年三月十五日來更ニ胸内苦悶歩行困難ヲ感シ同月二十五日清國蘇胡堡定立病院ニ入院當時體格榮養共ニ中等度食糧不振時々嘔吐ヲ發シ心悸亢進下腹部並ニ下肢知覺鈍麻脚部握痛膝蓋腿反射消失等ノ症アリ次テ遼陽大連兵站病院ヲ經テ四月五日廣島豫備病院ニ收容

四月十三日 惡寒頭痛ヲ覺エ體温三十八度八分脈搏百五十至昨夜二回嘔吐

同月十五日 顔面少シク潮紅シ頭痛嘔氣乾咳アリ胸部左側ニ笛聲及ヒ水泡音ヲ聽ク體温三十八度七分脈搏百五十至軟

同月十六日 體温三十八度咳嗽嘔氣依然安眠ヲ得ス

同月十七日 體温昨夜四十度今朝三十九度三分全身倦怠苦悶ノ狀アリ食思不振口渴甚ク全身皮膚ニ蕁蕁疹多發シ特ニ背部及ヒ下肢ニ多シ午後四時江波分院ニ轉入當時顔面チアノーゼ脈搏細軟百十至皮疹中皮下出血ト思ハルルアリ

同月十八日 顔貌不安嘔吐二回腰椎穿刺ニヨリ透明ノ腦脊髄液ヲ得精神明瞭應答正確耳鳴重聽アリ脾腫ヲ證明セス發疹ハ少シク褪色ス

同月十九日 昨夜ヨリ時々言語ヲ發ス脈搏頻數ニシテ軟而カモ之ニ一致シテ頭部振動スルヲ見ル  
同月二十日 顔面ノチアノ一セ増加シ四肢ニ波及シ吃逆ヲ始ム  
同月二十二日 脈搏細小頻數不正時々結代シ冷汗淋漓口唇チアノ一セ呈シ瞳孔反應遲鈍呼吸  
促進心音漸次幽微トナリ午後零時十分心動止ム

此ノ剖檢記事左ノ如シ

剖檢記事

外表検査

體格榮養中等胸廓ハ前後ニ厚ク所謂樽狀胸ヲナシ腹壁陷没シ腐敗性綠色ヲ呈ス屍硬未タ去ラス  
屍斑ハ強ク體ノ背側ニアリ兩大腿ノ前面及ヒ内面ニハ麻痺大ノ淡暗紅色ノ斑點多數アリ又左下  
腿内側附近ニ於テ拇指掌大ノ暗紫色ノ部分アリ試ミニ切開スルニ其ノ色深部ニ及ハス軀幹ノ背  
側殊ニ右ニ於テ指針頭大痲痺大乃至稀ニ豌豆大ナル多數ノ暗赤色斑アリ屍斑ト確然區別シ得ル  
モノニシテ強キ指壓ニ依ルモ消滅セス切開スルニ深部ニ達シ出血斑點ナルヲ知ラシム其ノ他異  
常ナシ

内部検査

- (一) 脊髓 脊髄管ヲ開クニ硬膜外面ハ血液浸淫ニヨリ暗赤色ヲ呈シ膜内面ハ滑澤ニシテ小血管ハ強ク怒張セルヲ認ム軟膜血管亦強ク充張ス此等變化ハ脊髄後側ニ著明ニシテ前側弱シ脊髄切開面ヲ各部ニ於テ檢スルニ灰白質ハ一般ニ富血性ニシテ質稍軟ナルノ外左右相對性ニシテ肉眼的著變アルヲ認ムル能ハス
- (二) 腦髓 頭蓋腔ヲ開クニ矢狀竇内ニハ半ハ凝固セル暗黑色ノ血液多量アリ且ツ硬膜ノ血管一般ニ血液ニ富ム軟膜血管ハ充張シ且ツ彼我ノ部分ニ於テ血色素ノ浸潤セルヲ認ム腦底又特ニ異常ナシ腦脊髄液ハ僅少ニシテ且ツ透明ナリ左右腦室ヲ開クニ漿液ハ甚々僅ニシテ透明、腦室ノ内壁ハ滑澤ニシテ異常ナシ大小腦ノ白質ハ唯、血點ニ富ムモ特種ノ病變ヲ認メス
- (三) 腹部及ヒ胸部 腹壁ヲ開クニ皮下脂肪組織尋常、筋肉ハ暗紅色ヲ呈ス大綱ノ下端ハ前後腹壁ト

瘰著セリ、大綱ノ脂肪量通常ニシテ一二ノ部分ニ於テ淋巴腺ノ周圍ニ溢血アルヲ認ム尙ホ又胃底部ニ存スル淋巴腺モ溢血セルモノアリ小腸下部腸間膜ニモ亦大小不同ノ不正形溢血斑アリ其ノ大ナルモノハ長サ一仙迷、半幅一仙迷ニ達ス腹部内臟ノ位置變化ナシ横隔膜ノ高サ左右第五肋骨下線ニ達ス

胸腔ヲ開クニ左肺ハ胸壁ト剝離稍、困難ナル纖維性瘰著ヲ爲シ同側肋膜腔内ニハ僅少ノ漿液アリ右肺ハ上葉ニ於テノミ輕キ索狀ノ瘰著アリ同側ノ肋膜腔ニハ異常液ナシ心臟ヲ開クニ透明ニシテ帶赤色ノ液少量ヲ入ル其ノ内面ハ滑澤ニシテ輕度ナル血色素ノ浸淫及ヒ少許ノ溢血點アリ心冠狀血管ハ怒張シ脂肪量尋常ナリ心臟ハ死體手拳ニ比シテ稍、大ナリ右心房ハ緊縮シ、半ハ凝固セル黑色ノ血液ヲ藏シ右心室ハ凝固セル血液ノ少量ヲ入ル、切開ニ際シ内部ヨリ瓦斯泡沫ノ逸出セルヲ認ム、左心室内ニ於テモ同様血液ノ少量ヲ容ル、右心室ニ於テハ内柱ノ高内ニ少數ノ纖維素ヲ混セル凝血塊ヲ認ム、瓣膜ハ強キ血色素ノ浸潤ヲ蒙リ赤色ヲ呈ス右心室腔ハ擴張シ、其ノ壁亦強度ノ肥大アリ、左室ニ於テハ其ノ室及ヒ腔ノ關係尋常ニシテ瓣膜亦異常ナシ唯、一般ニ血色素ノ甚々シキ浸潤ヲ蒙ルノミ筋質一般ニ軟ニシテ潤澤アリ且ツ暗赤色ヲ呈ス左右兩肺ヲ比較スルニ右肺ハ大ニシテ左肺ハ小ナリ、切開スルニ比較的富血性ナルノ外各部ニ於テハ肉眼的特異ノ變化ヲ認メス氣管支粘膜炎、血色素ノ浸潤ヲ被リ氣管支腺亦同様ナリ右肺ノ前部ハ稍、含氣量ニ富ムモ兩肺ノ後下部ハ共ニ鬱血性ニシテ且ツ水腫狀ヲ呈ス脾臟ノ大サ尋常、質稍軟、脾小體可ナリ顯著ニシテ約二分ノ一大ノ副脾ヲ有ス腎臟ハ左右同大ニシテ長サ一二仙迷幅七五仙迷厚サ三五仙迷アリ切開スルニ血液ニ富ミ皮質ハ稍、狭ク一般ニ黃白色ノ潤澤強ク皮膜稍、剝離シ難ク其ノ際僅ニ質質ノ缺損ヲ伴フ胃ハ帶黃綠色汚穢ナル流動液ヲ容レ粘膜炎、血管ハ稍、強ク怒張シ粘膜炎ハ一様ニ潤澤ス十二指腸ノ上部ヲ開クニ其ノ粘膜炎ニ富ミ又膽囊ヲ壓スルニヨリ十二指腸乳頭ヨリ膽汁ノ漏ルルヲ見ル

肝臟ノ大サ長サ三二仙迷幅一五仙迷長サ五五仙迷アリ切開スルニ貧血性ニシテ輕度ノ脂肪沈著アリ質潤澤セサレトモ少シク褐色ヲ帶フ膽囊ハ綠黃色ニシテ少量ノ膽汁ヲ有シ粘膜炎尋常ナシ

腸管を開クニ空腸粘膜炎ニ於テ麻實大灰白黒色ナル一ノ低隆起アリ其ノ周圍ハ發生スルモ未ダ潰瘍形成等ナシ廻腸下部ニ於テ淺キ麻實大ノ小潰瘍アリ邊縁蒼白ニシテ橢圓形ナシ其ノ長軸ハ腸管ノ横徑ニ一致ス迴盲部及ヒ迴腸部ノ腸間膜腺ハ腫大シ小指頭大ニ達シ質稍軟ナルモ切面ハ一様ニ髓様ヲ呈ス腸管粘膜炎一般ニ充血シ殊ニ上行及ヒ横行結腸ニ於テ著シ上行結腸粘膜炎ハ麻實大乃至粟粒大ノ小潰瘍多數アリ邊縁不正ニシテ銳ク少シク隆起シ底面ハ白色ヲ呈シ其ノ周邊ハ暗赤色帶ニヨリ圍繞サル又横行結腸始部モ同上小潰瘍アリ其ノ全數約三十箇ニ達シ圓形乃至不正形ニシテ淺ク筋層ニ達スルモノナシ潰瘍ニ一致スル漿膜面ハ特ニ異常ナク下行結腸漿液膜ニ於テ處々ニ小溢血症ヲ散發スルニ過キス

膀胱ハ緊縮シ其ノ粘膜炎ハ蒼白ニシテ内ニ透明ナル多量ノ尿ヲ藏ス其ノ他ニ異常ナシ

解剖診斷

- (1) 皮膚漿液膜ノ點狀出血(出血素因)
- (2) 心筋潤濁及ヒ右室ノ擴張
- (3) 強度ナル腎實質ノ潤濁
- (4) 慢性腎炎
- (5) 肝臟ノ脂肪浸潤
- (6) 肺動脈血及ヒ肺水腫
- (7) 大腸粘膜炎ノ濾泡性炎及ヒ同上小潰瘍
- (8) 腸間膜淋巴腺腫脹
- (9) 脾臟濾泡ノ增生
- (10) 左右纖維性癒著性陳舊性肋膜炎

第六章 再發

此ノ役發疹室扶斯ノ再發トシテハ唯一例ノ實驗アルノミ而シテ第一症ノ治後六日ニシテ再發ヲ

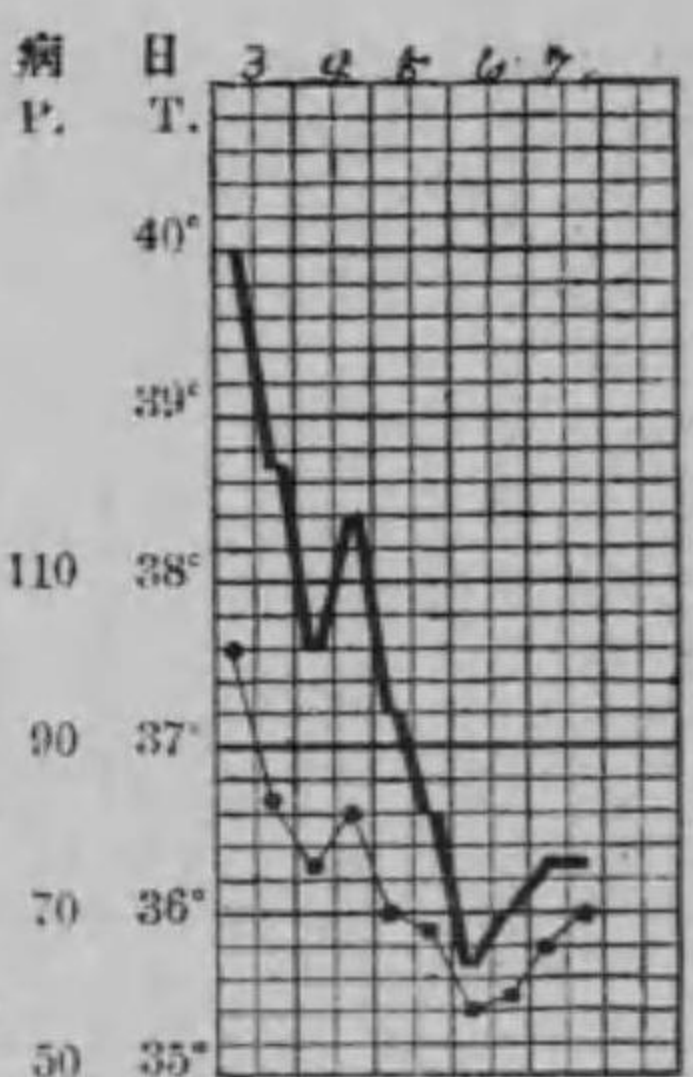
見タリ其ノ症例左ノ如シ

第八 再發シタル例

第一師團歩兵第十五聯隊第五中隊 特務曹長 兒玉文三 年齡二十七年八箇月

(一) 天資強健十六歳ノ時下痢症ニ罹リタル外著患ヲ知ラス幼時麻疹種痘ヲ經過ス、本症ハ明治三十八年五月十七日清國盛京省前孤家子ニ滞在中野外演習ニ出テ發汗シ午後六時頃歸營セシニ輕キ寒及ヒ腰部並ニ兩脚腸部ノ疲倦ヲ覺エシモ意ニ介セス執務セシカ輕快セサルヲ以テ五月十九日受診同頭臺子舍營病院ニ收容ス當時體格榮養共ニ中等體温四十度脈搏百二至緊張稍弱舌白苔ヲ衣シ濕潤ス咽頭充血シ發疹ナシ顔面ニハ極メテ僅少ニ胸腹部及ヒ下肢ニ散在性ニ上肢殊ニ上膊外面ニ集簇シテ紅色帽針頭大乃至胡麻大ノ發疹アリ右胸外面ハ特ニ密生シテ一般ニ發赤シ輕ク腫脹ス壓ニ依リ消滅スルモ間ニ中心ニ小溢血症點ヲ止ムルアリ眼瞼結膜ニ充血發疹ナク又皮膚ニ搔痒ナシ胸腹部ニ他覺的異常ヲ認メス咳嗽喀痰ナシ食欲稍減退シ口渴アリ腰部及ヒ兩下腿腸部ニ疲倦感覺ヲ訴フルノミニシテ顔ル輕微ナリ十七日來便絶ス

圖五十第



五月二十日 上膊ノ發疹ハ消退シテ不明瞭トナリ胸腹部ニアルモノハ依然タリ

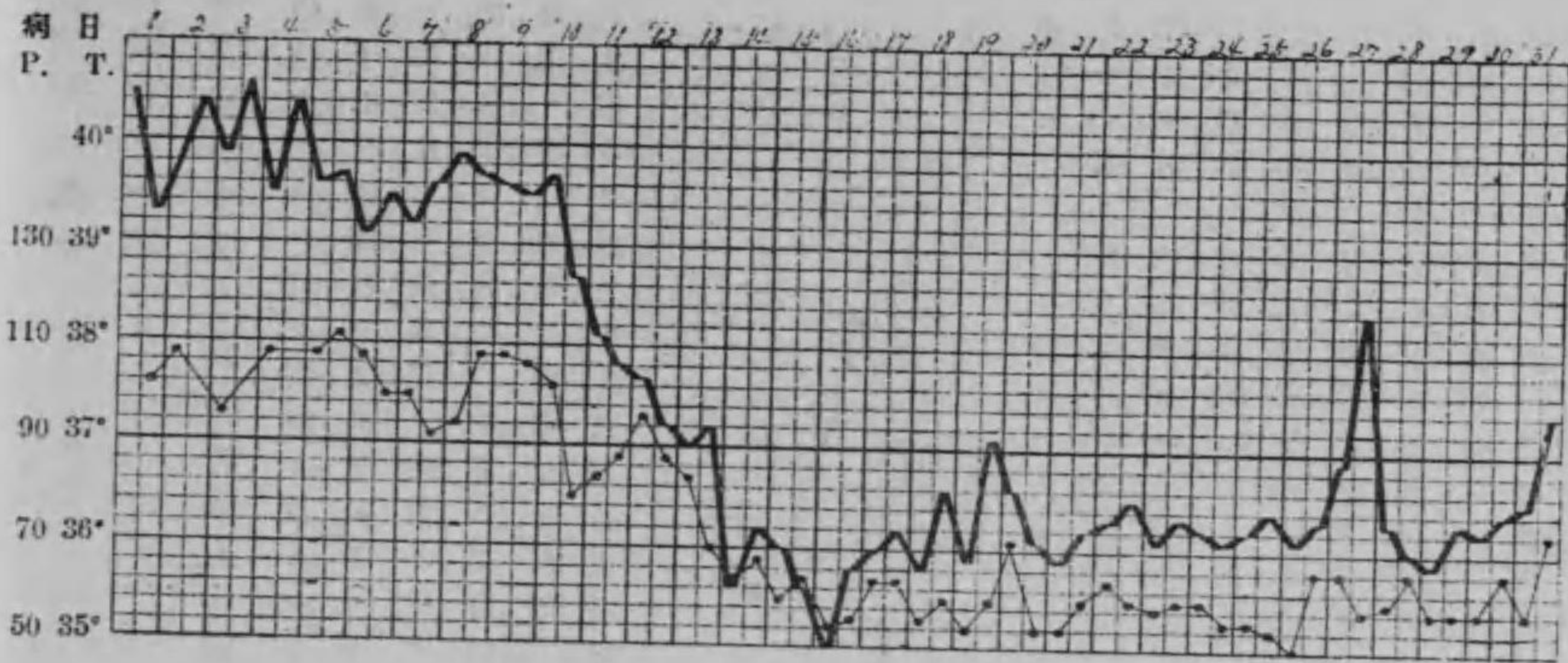
同月二十一日 昨夜二回睡眠時發汗アリ發疹ニハ搔痒ナシ大サ胡麻大ニシテ疹圍ハ潮紅セリ

同月二十三日 發疹消退シテ痕ヲ留メス

同月二十四日 治癒退院

(二) 明治三十八年五月十九日頭臺子ニ於テ發疹室扶斯ニ罹リ同地舍營病院ニ入院同月二十四日治癒退院セシカ其ノ後數日間下痢アリ次テ同年五月三十日清國盛京省大三家子五月二十五日頭臺子ニ於テ夜間執務中假睡シタルニ後チ輕度ノ惡寒戰慄ヲ覺エ頭重食思不振身體疲倦等ヲ來シタリシカ意ニ介セス毎日執務ヲ續行シタリ然レトモ依然輕快ニ向ハサルヲ以テ六月六日午後受診ス體温四十度五分アリ翌七日法庫門舍營病院ニ收容ス當時體格榮養共ニ中等體温三十九度三分脈搏百發疹室扶斯 再發

第六十圖



零八至強實舌ニ黄白色ノ苔ヲ被リ乾燥シ咽頭僅ニ充血  
 ス皮膚ハ乾燥シ軀幹四肢ニ帽針頭大乃至麻實大ノ皮膚  
 面ニ隆起セラル淡紅色ノ發疹散發シ壓ニヨリ消滅ス胸  
 部理學的診査上變化ヲ認メス腹部ハ稍陥凹セルモ壓痛  
 雷鳴ナシ脾腫ヲ認メス食慾減退シ便通普通ナリシカ昨  
 夜甘未服用ノ爲メ一回水瀉セリ自覺症ハ熱ニ比シ輕微  
 ニシテ頭重口渴下腿倦怠アルノミ  
 六月七日 脈搏百零八至眼珠結膜ハ輕度ニ充血シ發疹  
 ハ頭部ヨリ軀幹四肢ニ互リ帽針頭大乃至豌豆大トナリ  
 内ニハ帶黄褐色ヲ呈シ指壓ニ因リテ消滅セラルモノア  
 リ頭痛眩暈ヲ訴フ  
 同月八日 脈搏九十六至脾腫ヲ認ム  
 同月九日 脈搏百零八至紅疹ハ全身ニ互リ彌蔓シ大ニ  
 其ノ數ヲ増加シ脾腫依然頭痛眩暈アリ夜間安眠ヲ得ス  
 尿中蛋白ナシ  
 同月十日 左第五、六、七肋間ニ氣管支音ヲ聽キ精神稍瀟  
 瀟ス  
 同月十一日 脈搏百零八至左右上膊外面ニ於テ著シク  
 紅色セル疹ヲ認ム胸腹部ノ發疹中紫斑ニ變セル者多シ  
 口内ハ著シク乾燥シ帶黑褐色ノ舌苔ヲ衣シ少シク實頰一  
 シ言語稍滯滯ス昨夜安眠ヲ得ス  
 同月十二日 脈搏九十六至神識潤濁シ言語アリ發疹中  
 出血性ニ變セルモノヲ認ムキダール反應陰性  
 同月十四日 脈搏百零八至發疹ハ著シク消滅シ内ニ紫  
 斑ニ變スルモノアリ重聽存ス胸部ニ乾性囉音ヲ聽ク

同月十五日 脈搏百零五至顔面稍蒼白トナリ上膊頸部胸側ニ落屑ヲ認ム神識朦朧嗜睡々々重聽  
 アリ  
 同月十六日 脈搏九十六至舌苔黄白色トナリ未々厚シ疹ハ大略消褪シ脾腫又減少ス下肢モ亦落  
 屑スルヲ認ム精神狀稍輕快  
 同月十七日 脈搏九十六至體温三十七度二分ニ下降シ神識全ク明瞭トナリ夜間安眠ス  
 同月十九日 脈搏七十二至神識明瞭トナルモ重聽存ス脾腫著シク減少ス落屑益々著シク昨夜大  
 ニ發汗セリ  
 同月二十二日 脈搏五十四至脾腫ハ殆ト觸知セズ  
 同月二十三日 脈搏七十二至胸部前面ニ乾性囉音ヲ聽ク  
 同月二十九日 脈搏六十至肩胛部上肢ノ外側背部ニ褐色ノ斑點アリ脾及ヒ肝腫ヲ觸知セズ  
 七月一日 脈搏六十四至體力漸次恢復食慾亢進便通常  
 同月十七日 治癒退院

第七章 合併症及後發病

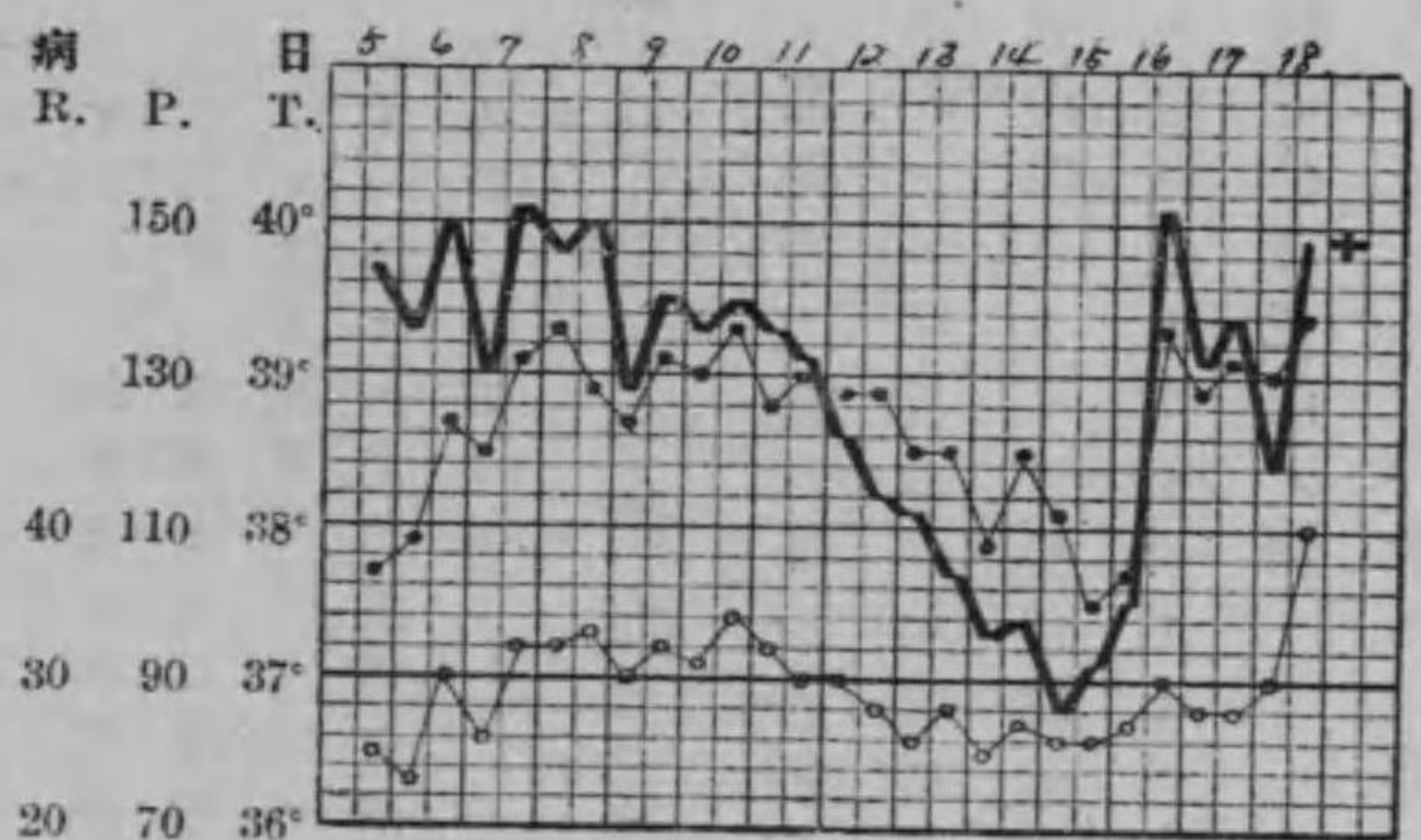
發疹室扶斯ノ經過中ニ發起セン合併症及ヒ後發病ハ各病症ノ條下ニ略記セリ然レトモ其ノ主要  
 ナルモノヲ擧クレハ肺炎及ヒ胸膜炎各三脚氣五赤痢一尿管ニ續發シタル膀胱加答兒三ニシテ經  
 過ハ其ニ比較的佳良ナリキ又後胎症トシテ毎例多少ノ貧血ト少數例ノ耳症局所神經痛ヲ貽殘シ  
 タリ今マ左ニ合併症ヲ來シタル主ナル症例ノ二三ヲ掲ク

第九 肺炎續發死亡ノ例

野戰砲兵第一旅團彈藥大隊第二縱列 豫備役砲兵一等卒 北原 松 治 年 齡 二 十 八 年 一 箇 月  
 血 族 遺 傳 ノ 關 係 不 詳 患 者 天 賦 強 健 幼 時 種 痘 瘰 癧 疹 ヲ 經 過 ス  
 本 病 ハ 明 治 三 十 八 年 五 月 三 日 獲 士 屯 滯 在 中 ヨリ 全 身 遠 和 惡 寒 ヲ 來 タ シ 熱 感 ア リ シ ヲ 救 テ 愈 ニ 介  
 セ ス 隊 卜 行 動 ヲ 共 ニ セ リ 然 ル ニ 同 月 五 日 來 諸 症 增 惡 勤 務 ニ 服 ス ル コ ト 能 ハ ス ン テ 受 診 ス  
 發疹室扶斯 合併症及後發病  
 五五九

體格榮養共ニ中等脈搏百四至體溫三十九度七分精神稍明瞭ヲ缺クモ重聽ナシ眼結膜ハ充血シテ舌ハ白苔ヲ被リ乾燥ス胸部ニ於テ著變ナシ胸背部ニ散在性蕁麻疹ヲ見ル脾腫ヲ認メ腹部少シク膨滿壓痛アリ

圖七十第



五月七日 咽頭粘膜炎充血ス脈百零八至胸背部四肢ニハ紅色ニシテ類圓形大小不同ノ發疹多數簇生シ一部ハ指壓ニ依リ消散スルモ一部ハ然ラス殊ニ四肢ノ内側ニ於テ著明ナリ胸部打診上變化ナク聽診上右肩胛下角部以下ニ於テ笛聲及ヒ水泡音ヲ聽取ス腹部僅ニ緊滿シ盲腸部僅ニ過敏ナリ脾臟及ヒ肝臟ヲ僅ニ觸知シ得ル際輕度ノ壓痛ヲ訴フ精神症狀異常ナク頭痛輕咳痰食思不振煩渴咽頭痛アリ便秘ス

同月八日 脈百二十至緊強弱シ眼結膜及ヒ紫膜積充血ス舌ニ潤色ノ薄苔アリ乾燥ス神經症狀著變ナキモ睡眠中譫語ヲ發ス

同月九日 咽頭粘膜炎暗紅色ヲ呈シ眼結膜少シク充血ス發疹ノ狀態依然腹部ハ稍緊滿シ辛クシテ脾肝ノ腫大ヲ觸知シ得胸部打診上變化ナク聽診上肩胛左下部ニ於テ多クノ水泡音ヲ聽ク譫語重聽アリ

同月十日 發疹ハ尙ホ依然トシテ變化ナキモ其ノ色ハ卻テ著明トナリ稍溢血症狀ヲ呈シ指壓ニヨリ全ク消散セス顔面腹部稍緊滿シ咽頭痛頭痛身體倦怠アリ

同月十一日 脈搏百三十六至力弱シ舌ハ乾燥シ赤褐色ノ苔ヲ衣シ眼結膜ハ著シク充血シ左眼膜ニハ溢血症ヲ見ル胸部打診上變化ナク聽診上右第五肋間ニ於テ二三ノ水泡音ヲ聽ク腹部緊滿シ脾肝臟ノ觸診ハ疼痛ノ爲メ爲ス能ハス胸背部其ノ他ニ於ケル發疹ハ全部溢血症狀ヲ呈シ皮膚ヨリ隆起セス其ノ色紫藍色ニシテ美麗ナリ聽診上右肩胛下部ニ於テ多クノ水泡音ヲ聽取ス聲音嘶

嘔シ時々吃逆ヲ發ス便通一行

同月十四日 脈搏百二十六至舌ハ乾燥シ黃白色ノ苔ヲ衣シ頻々吃逆ヲ發ス胸部打診上變化ナク聽診上第五肋間以下ニ於テ多クノ水泡音ヲ聽取ス發疹ハ其ノ色暗紫色ニシテ美麗色ヲ失フ背部聽診上左下部ニ於テ水泡音ヲ聽ク腹部緊滿依然タリ

同月十六日 脈搏百十四至眼結膜ハ尙ホ少シク充血シ發疹ハ漸次消退シ右肩胛下部ニ於テ尙ホ多數ノ水泡音ヲ聽取ス吃逆ハ晝間ハナキモ夜間ニ於テ發ス

同月十七日 熱ノ下降ト同時ニ精神症狀去リ能ク睡眠ス吃逆モ亦著シク減少脈百零八至眼結膜充血ハ著シク去リ發疹亦消退ス咳嗽痰今マ尙ホ多ク胸部打診上著變ナク聽診上右第三肋間以下ニ於テ水泡音ヲ聽取ス腹部依然トシテ緊滿ス背部右肩胛下角以下ニ於テ水泡音ヲ聽取シ打診上變化ナシ重聽尙ホ殘ス

同月十八日 脈搏百零四至舌乾燥シ褐色ノ苔アリ顔面稍無熱狀態ニシテ常ニ睡眠ス發疹ハ著シク消退シ斑點ヲ遺殘ス心悸著シク亢進スルモ異狀音ナシ腹部ハ處々ニ壓痛アリ右肩胛下隅ヨリ脊椎ニ沿ヒ多クノ水泡音ヲ聽キ打診上變化ナシ吃逆大ニ減ス

同月十九日 昨夜發熱四十度一分ニ達シ今朝三十九度一分ニ下降シ脈搏百二十八至中等大ニシテ稍軟時々上肢ノ搐搦ヲ發ス顔面ハ無熱狀ヲ呈ス舌ハ乾燥シ淡褐色ノ苔ヲ衣シ身體稍衰弱胸部打診上著變ナク聽診上右側ハ呼吸音微弱腹部觸診ニ際シ著シク疼痛アリ爲メニ脾肝ノ腫大不明發疹ハ悉ク消退シ痕跡ヲ遺スノミ背部右下部ニ於テ尙ホ多數ノ小水泡音ヲ聽ク咳嗽痰ハ粘稠黃白色ヲ呈シ時々僅微ノ血液ヲ混ス

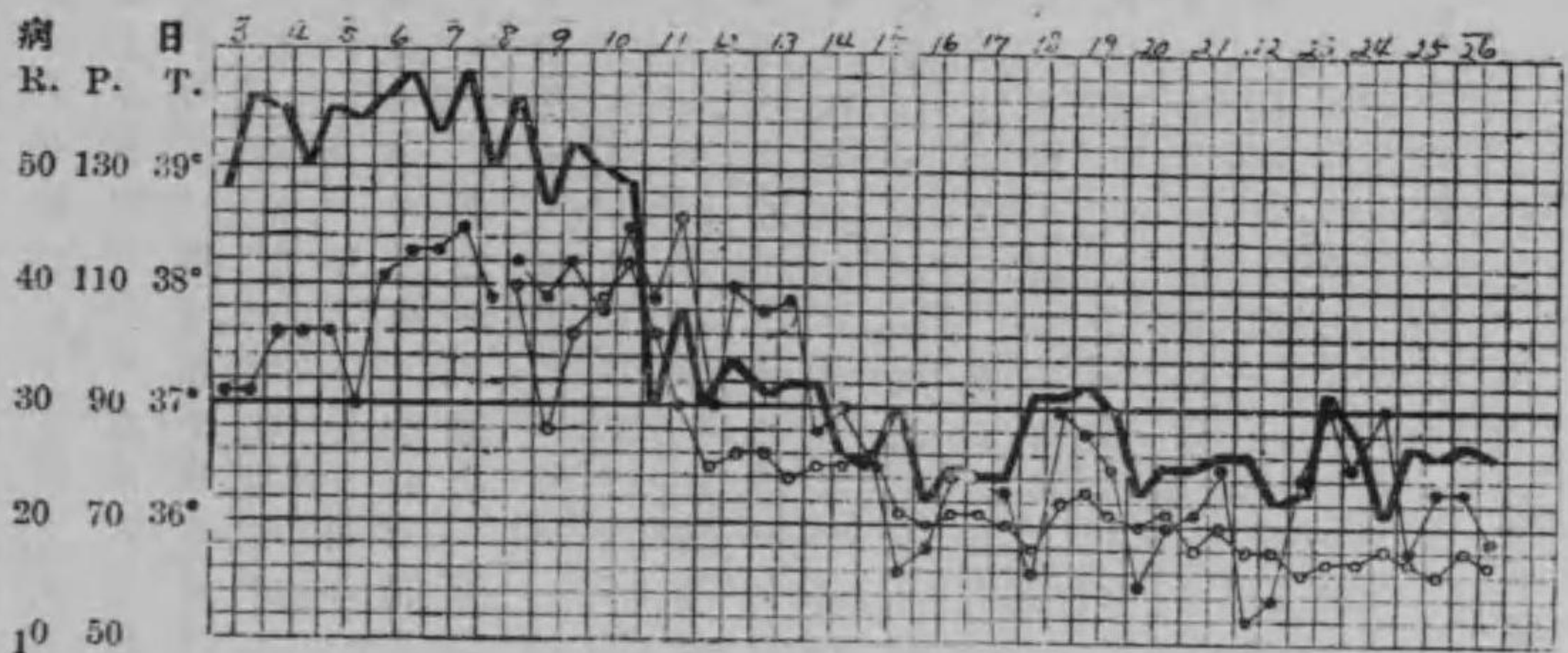
同月二十日 精神朦朧トシテ應答明瞭ナラス脈搏百二十六至舌ハ乾燥シ褐色ノ苔アリ午後ヨリ脈搏ハ漸次其ノ數ヲ増シ且少シク冷汗アリ脈數增加不正トナリ心音亦微弱時々「カムフル」ノ注射ヲ行ヒシモ遂ニ其ノ效ヲ奏セス二十一日午前四時心臓麻痺ニ由リ遂ニ鬼籍ニ入ル

第十 腎炎合併ノ例

大本營直屬建築部 技手 伊藤仙太郎 年齡三十年十一月

明治三十八年六月二十日午後惡寒ニ次テ熱發シ體溫四十度五分ニ達シ同二十二日午前三十八度發疹發熱併發 合併症及後發病

圖 八 十 第



今朝八時頃ヨリ吃逆喘鳴アリ顔面潮紅結膜充血シ皮膚ハ浮腫シ發疹ハ新生セサルモ漸次ニ溢血

八分脈搏強實九十至アリ舌ハ濕潤シ中央部ニ黃褐色ノ厚苔ナシ邊緣及ヒ尖端部發赤ス胸部打診上變化ナク右肩胛下部ニ小水泡音時トシテ前聲ヲ聽ク腹部輕度ニ膨滿シ下腹ノ兩側ニ輕キ壓痛ト右腸骨高部ニ虞兒音アリ脾腫ナク口渴劇頭痛食思減退腰痛ヲ訴フ昨日甘菜〇六ナ頓用シ軟便二行

六月二十二日 午前旅順要塞病院ニ收容當時頭痛増劇舌ハ乾燥厚苔アリ震頭ス腹部膨滿シ脾臟部及ヒ左右腸骨高ニ壓痛アリ殊ニ右腸骨高ニ虞兒音ヲ觸ル口渴甚々シク脈搏九十至ヲ算シ水樣便二行

同月二十四日 體溫三十九度五分脈搏強實百零二至咽頭充血シ全身皮膚ニ粟粒大ヨリ帽針頭大圓形ノ發疹ヲ生シ指壓ニ由リ消滅ス咳嗽頻發水樣下痢三回

同月二十五日 脈搏百十二至胸部打診上變化ナク聽診上一般ニ呼吸音粗烈ニシテ咳嗽頻發シ粘稠ナル少量ノ喀痰アリ咽頭ニ發疹ヲ見ル舌ハ乾燥シ厚キ白苔アリ結膜充血口唇乾燥ス顔面潮紅全身皮膚ハ浮腫シ發疹密生ス腹部右腸骨高ノ上部ニ壓痛ト虞兒音アリ脾臟部僅ニ過敏

同月二十六日 體溫三十九度三分精神稍濕潤シ體溫ヲ發シ重聽アリ口内乾燥シ舌苔ハ厚ク軟口蓋ニ發疹ヲ見ル木朝ハ發疹ノ中央部ニ溢血症アルヲ散見ス右肺ハ呼吸音粗烈ニシテ左肺ノ後面ハ一般ニ粗烈呼吸音及ヒ前聲ヲ聽キ程度ノ咳嗽喀痰アリ便ハ下痢止ミ少量ノ硬便アリ血液ヲ混ス尿ハ潤濁シ半透明琥珀褐色ニシテ蛋白量ニ圓柱上皮ヲ證明ス

ニ變移ス尿利困難血便アリ

同月二十八日 精神全ク濕濁時々恐怖ノ狀アリ脈搏細小軟ニシテ百十四至口内稍乾燥シ舌苔著明ナリ顔面ノ潮紅ハ稍減シ胸背部ノ發疹ハ減少シ下肢ニ無數ノ血斑ヲ生シ足趾面ニ及フ脾ハ打診上少シク腫脹セル如キモ觸知セズ尿ハ一回ノ量百十五ヨリ三百六十五ニ至リ一日ノ全量一千八百九十五ニシテ尙ホ蛋白及ヒ圓錐ヲ證明ス腹部ハ入院當時ヨリ少シク膨滿セリ吃逆時々發作ス同月二十九日 精神稍安靜トナレルモ尙ホ嘔々體溫ヲ發ス脈搏ハ強實百二十至ヲ算シ氣管支炎ノ症狀輕減シ喀痰減少ス發疹ハ一部消滅シ一部血斑トナル結膜ニモ一箇ノ溢血症アリ尿量減シテ一千五百四十五トナリ便結ス

同月三十日 應答明カナラス撮空模狀アリ吃逆甚々シク尿閉アリ膀胱ハ下腹ニ於テ小兒頭大ニ膨滿セリ體溫三十七度脈搏百二十六至打診上腫大ヲ認メシ脾ハ縮小ス

七月一日 嘔々體溫ヲ發スルモ躁狂ナシ脈搏百零八至強實便結ス

同月二日 嘔々體溫依然尙ホ離牀ヲ企ツ然レトモ應答要領ヲ得ルニ至ル舌苔僅ニ存シ乾燥シ驚顫ス

一日中數回顔面潮紅シテ少シク動作ノ粗暴トナルコトアリ脈搏百二十至胸部聽診上ノ變狀全ク去ル

皮膚ノ血斑ハ尙ホ點々散見スルモ其ノ數ヲ減シ便結アリ

尿ハ尙ホ蛋白圓錐ヲ認ム木朝來尿閉アリ「カタール」ニ依リ排尿ス全量二千七百五十瓦

同月三日 顔面潮紅及ヒ一般浮腫去ル時々食餌ヲ求ム脈搏ハ百零四至腹部ハ尙ホ一般ニ膨滿ス特ニ下腹部ニ於テ然リ

便秘シ尿閉依然タリ牛乳以外ニ一箇ノ鷄卵ト稀汁四百乃至五百瓦ヲ攝取ス

同月四日 熱ハ三十六度七分ニ下リ脈搏九十至アリ腹部ハ尿閉ノ爲メ下部ニ於テ膨隆シ皮膚ノ血斑ハ殆ト消散シタルモ尙ホ血斑ノ黃紫點トナリテ足趾及ヒ手掌ニ存ス昨日浣腸ニ由リテ多量ノ軟便アリ尿ハ透明トナル

同月五日 體溫三十六度二分脈搏六十至精神尙ホ興奮昏聩狀態ニアリ嘔々體溫シ撮空模狀ス而シテ衰弱漸次ニ加フ四肢ノ末端冷卻ス舌及ヒ軟口蓋尙ホ乳白色ノ斑點アリ乾燥ス昨日來尿中ニ

蛋白圓場ヲ證明セス皮膚ノ血斑ハ唯下肢ニノミ存ス  
 同月六日 體温三十六度五分脈搏七十二至腹部ハ陷没シ壓痛ナシ患者ハ常ニ呻吟努責シ應答確  
 實ナリ口渴甚タシ  
 同月七日 衰弱著シ牛乳ハ毎日六百瓦ヲ攝取ス精神稍明瞭トナル口内ハ尙ホ乾燥シ脈搏八十至  
 個里設林院腸ニテ多量ノ排便アリ少量ノ血液ヲ混ス  
 同月八日 脈搏九十六至尿閉依然タリ毎日「カテーテル」ニテ排泄ス全量約二千瓦ヲ算ス  
 同月九日 精神狀態尙ホ依然昏睡セルモ應答ハ稍明瞭ナリ脈搏八十四至脾臟及ヒ肝臟ノ腫大ナ  
 ク下肢皮膚ノ血斑亦殆ト消失セリ尿ハ「カテーテル」ニテ排泄ス  
 同月十一日 衰弱甚タシク精神尙ホ昏睡狀態ニアリ時々試料轉ス脈搏ハ六十二至強實昨日個  
 里設林院腸ニ由リ軟便ヲ排泄シ血液ヲ混セス尿ハ「カテーテル」ニテ排泄ス  
 同月十二日 精神稍確實應答明晰ナルモ事々ニ感動シ易シ食餌ハ自ラ求メサルモ與フレハ三百  
 瓦「スリーブ」六百瓦ノ牛乳ヲ攝取ス皮膚ノ溢血症ハ全ク其ノ跡ヲ止メス脈搏七十六至強實  
 同月十五日 皮膚濕潤シ食思振フ脈搏強盛七十八至多量ノ便通アリ  
 同月十七日 精神症狀漸次明瞭トナリ痰壅ヲ示シ或ハ含嗽ヲ動ムレハ自ラ爲シ得ルニ至ル尿閉  
 ノ爲メ下腹部ニ疼痛ヲ訴フ脈搏中等大八十四至昨日個里設林院腸ニテ多量ノ軟便アリ血液ヲ見  
 ス  
 同月十九日 昨夜六百瓦ノ排尿ト本朝自ラ七百二十五ヲ排泄シ「カテーテル」ヲ要セサルニ至ル  
 同月二十一日 精神明瞭トナルモ尙ホ些事ニ感動シ易シ便ハ水様黃色ニシテ尿意頻數一日十一  
 二行脈搏七十二至舌ハ能ク濕潤シ薄キ白苔ヲ衣ス腹部壓痛アリ  
 同月二十四日 精神明晰安靜トナリ信書新聞紙等ヲ讀ム然レトモ尙ホ過敏ナリ呼吸脈搏正常咽  
 頭ノ充血消失舌ニ尙ホ薄苔アリ皮膚ハ濕潤シ彈力アリ下腹部ニ壓痛アリ便通軟便四、五回尿意頻  
 數一日十一、二回  
 同月二十八日 精神明瞭談話應答明確ナルモ尙ホ過敏ナリ皮膚ニハ少シク落屑アリ腹部ハ右腸  
 骨窩部ニ於テ痠兒音ト程度ノ壓痛ヲ訴フ脈搏七十五  
 八月四日 舌苔去リ食思振ヒ腰部ニ少シク落屑アリ下腿浮腫消失ス室外散步ヲナスモ苦痛ナシ

便ハ普通便一日一行尿利九回脈搏七十二至少シク耳鳴アリ  
 同月十六日 體力大ニ復ス全身浴ヲ許ス  
 同月二十日 並食ヲ與フ異常ナシ  
 同月二十七日 治療退院

### 第八章 診 斷

此ノ役我カ軍ニ於ケル發疹室扶斯ノ診斷ハ主トシテ臨牀の症候即チ發病狀態熱型體温ト脈搏ト  
 ノ關係軀幹四肢ニ於ケル多數ノ普薇疹、重キ神經症狀等ヲ觀察シ兼ネテ細菌學の所見ヲ照應シテ  
 之ヲ決定シタリ然レトモ本症初發ノ當時ニ於テハ發生部隊ハ勿論收容ノ病院ニ於テモ診斷上多  
 少ノ困難ヲ覺エタリ蓋シ本症ハ常時我カ陸軍ニ發生ヲ見サルノミナラス其ノ病形ノ完カラサル  
 モノアリシニ由レリ而シテ當初ハ假リニ發疹性流行性感冒、不明發疹熱性病等ニ命名シテ發疹室  
 扶斯ニ疑ヒテ存セシモノアリシカ尙ホ腸室扶斯流行性感冒、麻疹等ニ診定シタルモノ多カリシ爾  
 後本病ノ多發ト共ニ精細ノ觀察ヲ逐ケ本病ナルコトヲ認ムルニ至リタリ  
 之ヲ要スルニ本病ノ診斷ハ今回實驗ノ結果ニ徵スレハ將來病原體ヲ確定シ診斷ニ一新生面ヲ開  
 拓セサル限リ吾人ハ尙ホ臨牀上ノ主徵候ニ依據シ同時ニ地理的關係等ニ由ル病形ノ變態ヲ思ハ  
 サルハカラス而シテ之ニ細菌學の所見地方流行狀況及ヒ患者既往ノ疾患ヲ參照セハ診定ニ大過  
 ナカルヘシ左ニ二三ノ例證ヲ掲ケテ診斷ノ資トナス

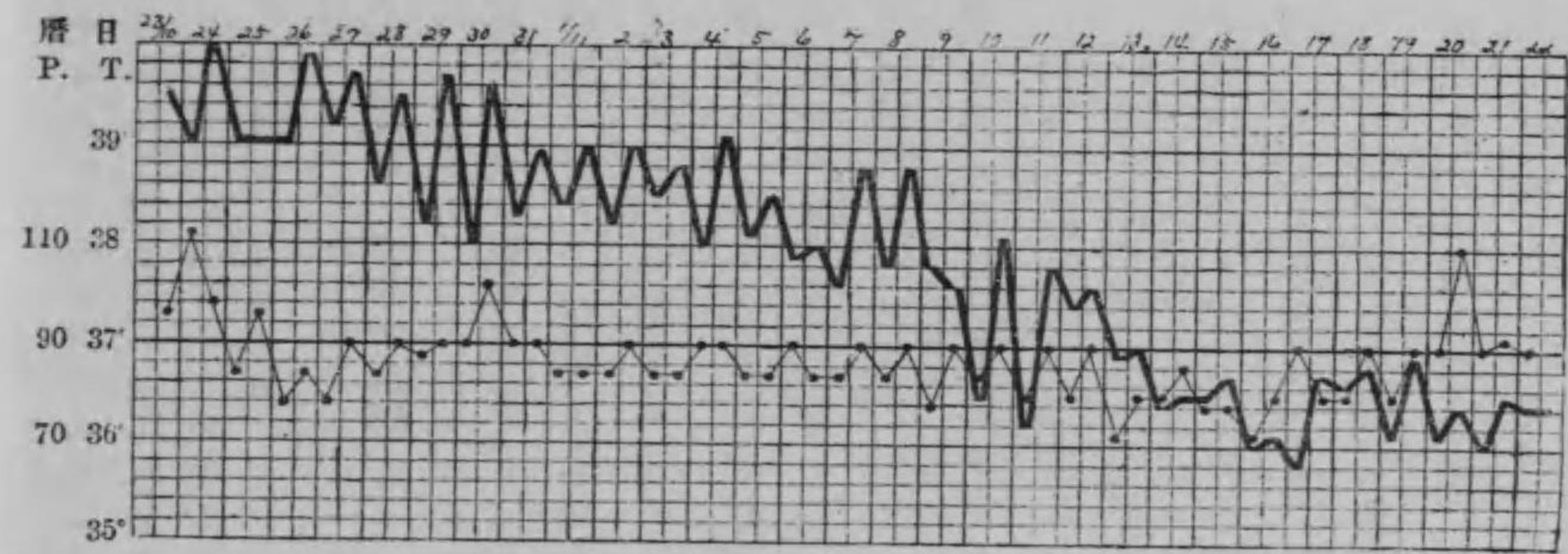
#### 第十一 腸室扶斯後發疹室扶斯罹患例

第十一師團第十五補助輸卒隊 補充兵輜重輸卒 近藤平次郎 年齡二十一年十一月

(一)兩親及ヒ兄弟六人共ニ健存ス患者天資強健營ヲ大患ヲ知ラス幼時種痘麻疹ヲ經過ス明治三十八

發疹室扶斯 診斷

圖 九 十 第



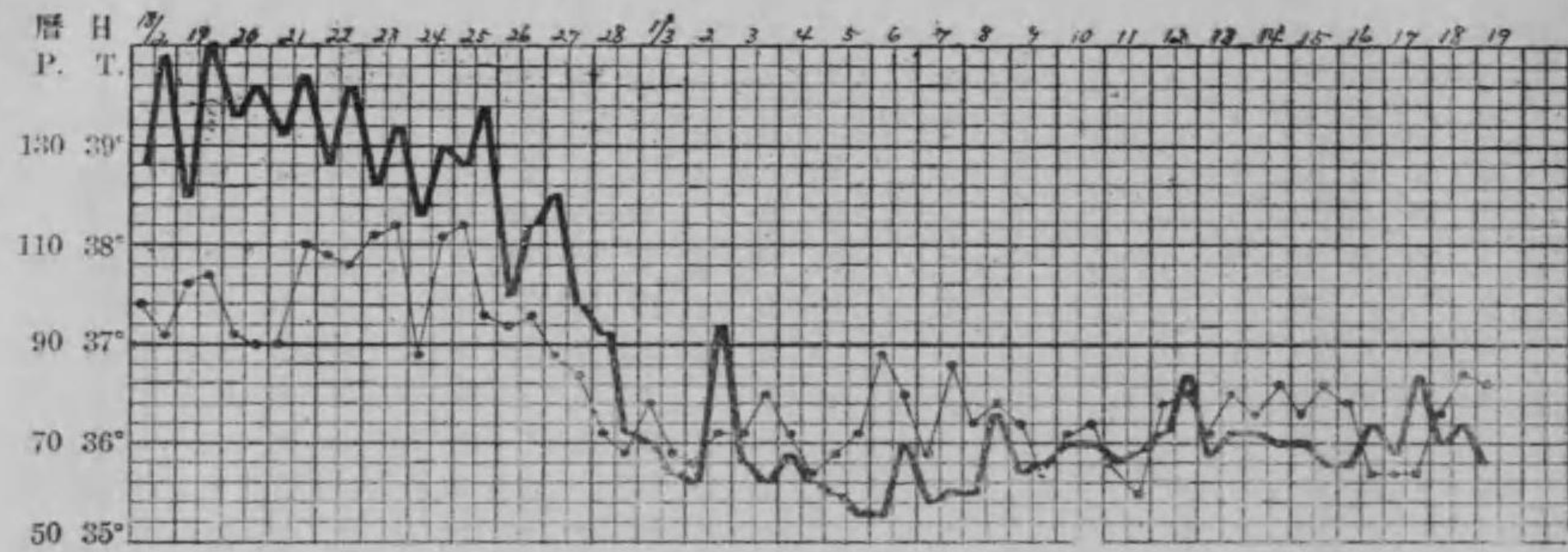
發疹室扶斯 診斷

年十月十九日清國盛京省海城ニ於テ少暗勤務中惡寒ヲ覺エ  
翌二十日受診二十二日海城兵站病院ニ入院當時體格強健榮  
養中等體溫三十九度脈搏九十至緊張アリ頭痛眩暈全身倦怠  
不眠食思不振煩渴舌乾燥帶黃白色ノ苔ヲ被リ口唇及ヒ皮膚  
少シク乾燥胸部著變ナシ腹部稍膨滿下腹部雷鳴アリ便通三  
行帶黃綠色ニシテ軟尿量減少シ黃褐色ヲ呈ス  
十月二十三日 體溫三十九度五分脈搏九十六至ニシテ重復  
性ナリ精神昏朦シ口腔舌共ニ乾燥シ舌ヲ挺出セシムルニ賞  
顯ス煩渴甚タシク飲引ス胸部異常ナク著變ナシ認メス腹部  
膨滿シ右腸骨高部過敏ニシテ雷鳴アリ脾臟腫大不明ナリ便  
通三行ニシテ軟ナリ  
同月二十四日 體溫三十九度脈搏百十二至不安食思不振等  
症狀前日ニ比シ大差ナク便通七行  
同月二十五日 體溫三十九度脈搏八十四至胸腹部ニ著變ナ  
シ見ル其ノ他著變ナシ此ノ日腸室扶斯ト決定ス便通三行ニ  
シテ軟  
同月二十七日 體溫三十九度二分脈搏七十八至此ノ日ヨリ  
體溫少シク弛緩ヲ始ム便通一行  
同月二十九日 本朝體溫三十八度二分脈搏九十至前日ヨリ  
一般症狀少シク輕快ス便通一行  
同月三十一日 午後體溫三十八度九分脈搏八十四至便利設  
林院腸ヲ施ス糞便多量爾來體溫三十八度五分内外ニ在リテ  
脈搏八十五至内外ヲ算シ漸次症狀輕快ス  
十一月五日 體溫三十七度九分脈搏九十至一般症狀益々其微  
ナ加フ便通二行

五六六

圖 十 二 第

發疹室扶斯 診斷



(二)

四月十三日 全ク解熱ス  
爾來榮養漸次恢復セシモ十一月二十二日ヨリ心悸亢進下肢  
ノ輕度ナル浮腫等脚氣症狀ヲ呈シ加療ノ處翌三十九年一月  
末著シク輕快セシナリ以テ同月二十八日大石橋兵站病院ニ轉  
送次テ第一關東陸軍病院ヲ經テ二月十七日陸軍病院船弘濟  
丸ニ收容當時下肢倦怠ノ感アルノ外異常ナカリキ翌十八日  
ニ至リ急ニ發疹室扶斯ヲ發現セリ其ノ病症記事次ノ如シ  
二月十八日 午前頻回ノ惡寒ニ踵クニ灼熱ノ感ヲ以テシ食  
思不振頭痛アリ依テ受診體溫三十八度八分脈搏九十九至午  
後體溫三十九度九分脈搏百零二至輕度ノ咳嗽アルモ胸部ニ  
異常ナク腹部モ亦著變ナシ便通二行  
同月十九日 正午體溫四十度脈搏百零四至頭痛食思不振依  
然タリ舌白苔ヲ衣シ胸部腹部共ニ著變ナシ脾臟少シク腫大  
ス  
同月二十日 午後廣島豫備病院江波分院ニ收容體溫三十九  
度六分脈搏九十至頭痛眩暈全身倦怠食思不振顔面潮紅シ眼  
輪及ヒ眼球結膜充血ス蓋明流淚ナシ鼻粘膜少シク充血ス眼  
血アリ舌ハ潤色厚苔ヲ衣シ著シク震頭ス中央乾燥シ舌根及  
ヒ舌縁ハ粘稠ナル粘液ヲ以テ被ハル口蓋粘膜少シク充血ス  
ルモ發疹ナシ扁桃腺異常ナシ皮膚乾燥シ軀幹四肢殊ニ手背  
足背ニ至ルマテ多數蕁生セル帽針頭大ノ皮疹ヲ認ム皮膚ハ  
指壓ニヨリ全ク消褪シ色ハ蒼白色ヲ呈シ皮膚面ヨリ隆起セ  
ス輪廓不明ナリ患者ノ言ニ從ヘハ今朝初メテ手背ニ其ノ發  
現ヲ認メタリト皮疹ハ部位ニヨリ多數ノ區別ヲ認メス時々  
咳嗽アレトモ喀痰少量ナリ胸部著變ナク腹部膨滿セス亦壓

五六七



痛ナシ脾臟者シク腫大シ季肋緣下殆ト三橫指徑ニ達シ過敏ナラス肝臟ヲ觸知ス腋蓋腫反射少シク亢進シ知覺鈍麻浮腫ナシ關節痛及ヒ筋肉痛著明ナラス便通一回黃色軟便尿ハ「アアツオ」反應陽性

四月二十二日 午前體溫三十九度一分脈搏百零八至中等大緊張其重複性ナラス皮膚疹ハ胸腹部背  
部殊ニ兩肩膊ニ於テハ前日ニ比シ稍顯著ナリ指壓ニ消滅スルモノト舌ラサルモノトアリ然レ  
トモ下腿ニ於ケル皮膚疹ハ少シク消滅ヲ始ムルモノノ如シ脾臟少シク縮小スルモ尙ホ觸知ス質少  
シク軟弱不安ニシテ不眠ヲ訴ヘ重聽アリ便通二回軟便尿量五百立方仙迷ニシテ稠赤色ヲ呈シ  
「アアツオ」反應陽性蛋白糖、圓錐ナシ血球ヲ計測スルニ赤血球六百三十三萬七千五百白血球一萬一  
千六百即チ白血球ノ比ハ一ト五四六ナリ

同日二十六日 本日體溫急ニ下降シ正午體溫三十七度五分脈搏八十二至至顔面潮紅少シク去ル安  
靜ニシテ睡眠其重聽アリ胸腹部異常ナシ脾臟尙ホ觸知ス

同日二十八日 此ノ日全ク解熱ス體溫三十六度一分脈搏六十八至重複性ナラス皮膚濕潤シ顔面  
潮紅全ク去ル食機亢進ス胸部及ヒ腹部異常ナシ脾臟ハ深吸氣ノ際觸知スルコトヲ得血球ヲ計測  
スルニ赤血球五百四十八萬一千二百五十白血球一萬一千三百即チ白血球ノ比ハ一ト四八五ナ  
リ  
爾後恢復期ニ入り食慾大ニ増進ス依テ劑食ヲ許ス

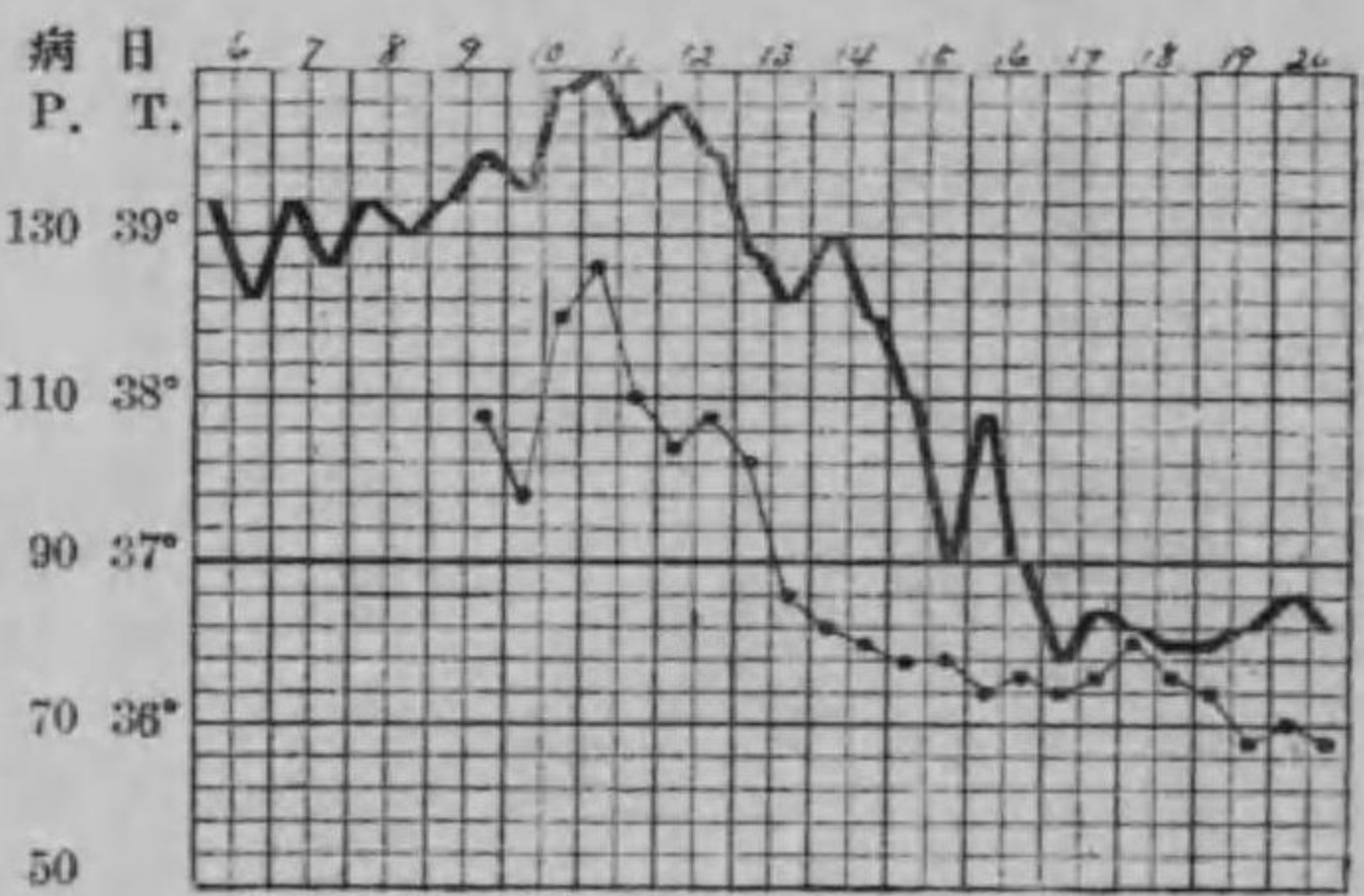
第十二 發疹多數腦症高度肝脾腫大ノ例

步兵第四十八聯隊第一大隊 步兵軍曹 加藤虎之助 年齡二十三年三月

血族遺傳ノ證明ナシ患者生來強健未ダ麻疹ヲ經過セズ

明治三十八年四月八日午後六時頃ヨリ惡寒熱發身體倦怠和頭痛ヲ覺エ食慾減損ス十日發熱依  
然持續シ劇甚ノ腹痛及ヒ筋骨痛ヲ訴ヘ蛔蟲三條ヲ排泄ス斯ノ如クシテ經過スルコト六日間戰友  
時ニ其ノ病狀ヲ尋メルモ患者ハ胃加答兒ナラムト信シ所持ノ健胃散等ヲ服用シ受診ヲ肯セス偶  
右ノ情況隊附軍醫ノ知ルトコロトナリ診斷ヲ行ヒシモ熱ノ經過ノ詳細ヲ知ルコト能ハス而シテ  
其ノ惡寒ハ高度ナリシヨリ見レハ或ハ突然三十九度以上ニ發熱セシモノノ如ク續テ三日間時々

圖一十二第



ハ散發スルニ過キス聽診上右肩胛下部ニ呼吸音銳利ナリ煩渴甚タシ處方番曹三〇及ヒ控氏散ノ  
兼用ヲ命ス

同日十五日 午前體溫三十九度二分食慾不振僅ニ稀汁ヲ攝取ス尿ハ茶褐色ニシテ少量ナリ散曹  
ヲ投ス下熱ノ狀ナシ午後四時診スルニ患者ハ果然トシテ精神著シク潤濁シ舌ハ乾燥ノ極度ニ達  
シ運動滑ナラス爲メニ言語障礙アリ舌尖及ヒ周圍ヨリ舌苔剝離ス發疹ハ全身ニ互リ殊ニ背部内  
股ニ簇生ス精檢スルニ發疹ノ大小形狀ハ不正ニシテ二三合併スルモノアリ然レトモ多クハ孤立  
シ之ヲ壓スレハ消滅スルモ中ニハ暗紅色ヲ呈シ溢血斑ヲナスモノアリ肩胛間部ニ於テ呼吸音粗  
ナリ精神症狀依然タリ

右ノ症狀ニ依リ病名ヲ發疹發熱ト改ム

同日十六日 脈搏百零四至中等大ニシテ稍軟舌ハ乾燥シ咽頭粘膜著シク充血眼瞼結膜モ亦充血  
シ右眼球鞏膜ニ古キ溢血斑左鞏膜ニハ少數ノ新生溢血斑アリ軀幹四肢ニ紫藍色ニシテ皮膚ヨリ

發疹發熱 診斷

惡寒アリ尙ホ嘔心嘔吐ヲ來シ睡眠佳ナラス體格薄弱ニシ  
テ貧血シ舌ハ褐色ノ苔ヲ蒙リ少シク乾燥ス眼球並ニ眼瞼結  
膜ハ著シク充血シ口腔咽頭粘膜モ同シク暗紅色ニシテ炎症  
症狀ヲ呈ス頸部胸部背部腹部等ニ散在性ノ發疹アリ赤色  
ヲ呈スルモ患者之ヲ自覺セス麻疹ニ罹リタルノ有無ヲ尋問  
スルニ未ダ之ヲ患ヒシコトナシト云フ之等ノ症狀ニ依リ麻  
疹ト診斷セリ然レトモ其ノ發疹ノ顔面及ヒ頸項ニ於テ胸背  
部ニ比シ比較的少ナキヲ疑ヘリ胸部ノ理學的診査上未ダ異  
常ナク肝脾ノ腫大ヲ認メス胃部壓重ノ感アリ盲腸部稍過敏  
腹滿ナシ十三日體溫正午三十九度二分脈搏百十五至ヲ算ス  
咳嗽少シク増加シ咽頭ニ疼痛ヲ訴ヘ便秘ス

四月十四日 時々諸語ヲ發スルモ醒覺時ハ應答明瞭ナリ舌  
ハ暗褐色ノ厚苔ヲ蒙リ乾燥ス少シク嗜眠狀態ニアリ睡眠中  
不絶凶夢ニ襲ハル發疹ハ益々増加シ軀幹四肢ニ著シク顔面ニ

殆ト隆起セサル小發疹アリ一見皮下溢血症ノ如ク大小不同其ノ形狀不定ニシテ指壓ニヨリ消滅  
 セス顔面ノ發疹全ク消退ス胸部理學的變化ヲ認メス腹部ハ少シク緊滿シ脾肝ノ腫大不明下腹部  
 ニ少シク壓痛アリ自覺症トシテ主トシテ咽頭痛腰痛ヲ訴フ  
 同月十七日 晝夜嘔々譫語ヲ發シ脈搏百二十至大ニシテ軟舌ハ乾燥シ稍、褐色ノ苔アリ左肩胛下  
 部ニ笛聲及ヒ二三ノ水泡音ヲ聽取ス腹部ニ輕度ノ壓痛アリ  
 同月十八日 脈搏百零八至眼結膜ハ稍、著シク充血シ舌ハ汚穢白色ノ苔ヲ以テ被ハレ胸背部ノ發  
 疹尙ホ存ス胸部處々ニ笛聲ヲ聽キ第七胸椎部ノ右側ニ於テ二、三ノ大小水泡音ヲ聽ク腹部ハ僅ニ  
 膨滿シ且ツ一般ニ壓痛アリ昨夜軟便一同腸蟲二條ヲ排泄ス  
 同月二十日 脈搏八十四至大ニシテ稍、軟舌ニ灰白色ノ厚苔ヲ衣シ濕潤シ震顫ス眼結膜ノ充血少  
 シク輕快咽頭痛充血胸背部其ノ他ニ於ケル發疹漸次消滅ス右肩胛下部ヨリ右腋窩ニ互リ多ク  
 ノ水泡音ヲ聽取スルモ打診上變化ナシ  
 同月二十一日 脈搏七十八強實左肩胛下隔以下ニ於テ大小水泡音ヲ聽取シ睡眠スレハ直ニ譫語  
 ナ發スルモ言語應答ハ確實ナリ  
 同月二十二日 咳嗽略痰稍、著シク脈搏七十八強實發疹ハ其ノ色全ク消滅シ其ノ跡ヲ止ムルノミ  
 同月二十三日 自覺症著シク輕快シ譫語全ク止ミ唯、重聽ヲ始殘ス

### 第九章 豫防及療法

#### 甲 豫防法

此ノ役本症ノ豫防ニ就テハ其ノ發生部隊ニ於テ消毒豫防法ヲ勵行シ患者同宿者ノ隔離居室被服  
 器具ノ消毒煮沸藥物、燒卻等ヲ嚴行シ時々健康診斷ヲ施行シタリ然レトモ尙ホ本病多發ノ爲メ病  
 毒汚染ノ疑ヒヲ來シタルノ宿營地ハ之ヲ他ノ健康地ニ移轉セシメタリ其ノ一例ハ法庫門宿營中  
 ノ第二師團第九補助輸卒隊ニシテ同隊ニハ發疹室扶斯患者續發シ蔓延ノ兆アリシヲ以テ法庫門

ヲ去ル一里餘ノ高麗屯ニ宿營地ヲ移轉セシメ舊宿舍ハ充分消毒法ヲ施行シ一定期間之カ使用ヲ  
 禁止シタリ當時土屋第三軍兵站軍醫部長ノ發シタル轉營ニ關スル注意事項次ノ如シ

#### 宿營地移轉ニ關スル注意事項

- 一、轉營ノ際ハ患者ト同居セルモノ及ヒ交通頻繁ナリシ隣室ノモノヲ合シテ健康者ト分割スル  
 コト
- 二、轉營ノ際ハ先ツ健康者ヲ出發セシメ轉營地ニ於テ隔離室定マリタル後チ患者同居者及ヒ隣  
 室者ヲ後發セシメ健康者ト混同セシメサルコト
- 三、隔離室ハ嚴重ニ健康兵トノ交通ヲ絶チ十日間毎日健康診斷ヲ行ヒ果シテ健全ナルモノハ之  
 ヲ解クコト
- 四、轉營ノ上直ニ全部ノ健康診斷ヲ行ヒ(爾後當分ノ間時々之ヲ行フ)感冒様ノ患者ハ先ツ第二ノ  
 隔離室ニ分離シテ經過ヲ見疑ハシキトキハ第一ノ隔離室ニ移スコト
- 五、乃チ疑ハシキモノハ之ヲ第一隔離室ニ單ニ感冒様ノモノハ第二隔離室ニ入ルコト
- 六、法庫門宿營家屋ノ患者居室ハ充分消毒シテ閉鎖シ明カニ之ヲ標示シテ十日間他人ヲ入ラシ  
 メサルコト

爾他健康兵ノ宿舍ハ單ニ閉鎖シ之ヲ標示シテ十日間他人ヲ入ラシメサルコト  
 本病患者ヲ收容セル病院ニアリテモ亦防疫ニ遺算ナキヲ期セリ而シテ戰地ニ於テ最モ本病患者  
 ヲ多數ニ收容セル法庫門合營病院ニ於テハ該患者ノ病室ヲ擔任スル衛生部員ハ皆ナ之ヲ專任ト  
 シ此等ノ職員ハ他トノ交通ヲ遮斷シ以テ病毒ノ散蔓ヲ防キタリ今マ同病院ニ於ケル豫防消毒ノ  
 規定ヲ左ニ示シ以テ其ノ實況ヲ明カニセム

- 一 軍醫以下ノ職員ハ專任トシ他ト全ク交通ヲ許サス
  - 二 病院内ノ清潔ニ注意シ且ツ豫防消毒法ハ左ノ如クス
    - (イ) 室内通氣ヲ充分ナラシメ土間ハ昇汞水ヲ撒布シ絶エス濕潤ナラシム
    - (ロ) 看護者ハ患者ニ接スルニ際シ避病衣及ヒ所定ノ上草履ヲ穿用セシム
    - (ハ) 看護者ハ二%リゾール水ヲ以テ時々身體ノ露出部ヲ拭淨ス
    - (ニ) 患者用藥瓶及ヒ食器ハ總ヘテ煮沸消毒ヲ行フ
    - (ホ) 患者ノ排泄物及ヒ汚染ノ疑ヒアルモノハ強力消毒藥ヲ用ヒ又ハ燒卻ヲ行フ
    - (ヘ) 病室ノ入口ニハ五百倍昇汞水ヲ浸セル靴ヲ備フ
    - (ト) 發疹室扶斯疑似者ハ一定ノ隔離室ヲ設備シ精診後適當ノ病室ニ遷ラシム
    - (チ) 病室ニハ軍醫以下職員ノ他何人タリトモ出入ヲ禁ス
- 其ノ他一般防疫實施ノ記載ハ一般防疫ノ條下ニ讓リ茲ニ省略ス

### 乙 療法

發疹室扶斯ニ對スル治療法ハ其ノ病理ノ未タ明カナラサルト共ニ特效療法ナシ茲ヲ以テ今回ノ戰役ニ於テハ一般ニ急性傳染病ニ對スル處置ヲ採リ而カモ待期的療法ヲ實施シタルニ過キス而シテ各地ヲ通シテ概ネ其ノ軌ヲ一ニセリ今マ一括シテ其ノ梗概ヲ下文ニ摘記スヘシ

一般ニ靜臥ヲ命シ榮養ニ注意シ全經過中解熱ニ至ルマテハ絕對的護摩シ諸語強キモノハ特ニ看護者ヲシテ一層配意ヲ深カラシメ有熱時ノ食餌ハ稀汁牛乳卵黃肉羹汁等ノ流動食餌ヲ供シ渴ヲ醫スル爲メ鹽酸里母那垚又ハ之ニ赤酒ヲ加ヘテ飲料トナシ其ノ他鹽酸加里、硼酸、食鹽水等ノ含嗽

ヲ命シテ口内ノ清潔ヲ保タシメ偶、不快ノ症狀萌芽スルニ遭ヘハ直ニ之ニ向ヒテ適當ノ處置ヲ講シタリ今マ左ニ主要ノ症狀ヲ列舉シ之ニ對スル治療法ヲ略記セム

#### イ 熱

高熱期ニ於テハ頭部ニ氷囊ヲ貼シ冷濕布ノ纏絡ヲ行ヒ心臟ノ狀況ニ注意シ高熱甚タシキ場合ニ限リ下熱藥ヲ用ヒタリ然レトモ其ノ效ハ一時的ナリシ

#### ロ 心臟衰弱

心臟衰弱ノ徵アルトキハ實麥答利斯葉、ストロファンツス、丁幾樟腦珈琲乙涅赤酒等ノ強心藥及ヒ興奮藥ヲ投シタリ

#### ハ 氣管支炎

氣管支炎ニハ祛痰劑、鎮咳劑、吐根浸、遠志浸、杏仁水、確亞精ヲ用ヒ肺炎ニ對シテハ胸部濕冷卷法ヲ施シ特ニ心臟ノ状態ニ注意ス

#### ニ 便秘

便秘アレハ隨時偪里設林、石鹼水等ノ洗腸ヲ施シ其ノ他ノ合併症ニ對シテハ其ノ病症ト狀況ニ應シ種々ノ療法ヲ行ヒタルモ特ニ掲クルノ價値ナキヲ以テ茲ニ贅セス

恢復期ニ至レハ規那煎赤酒等強壯藥ヲ用ヒ盛ニ滋養物ヲ與ヘタリ

誤 正

頁	行	誤	正
一六〇	表	當該患者數リ對スル%	當該患者數ニ對スル%
一六三	一 (割註)	出ダシリ	出シタリ
一七一	一	線集	集線
一七八	一五	ト、轉歸	ト、轉歸
二七九	九	末期	末期
二九三	一	豫備病院	豫備病院
三八五	三	拂ハサルヘラモナルヘシ	拂ハサルヘラモナルヘシ
三八九	五	箇中	箇中
四一六	九	止	抑止
四二四	四	計ノ一字ヲ脱ス	計ノ一字ヲ脱ス
四二五	表	○・四ニナ脱ス	○・四ニナ脱ス
四九六	二	脊部	脊部
五〇三	一	シノミナリ	シノミナリ
五〇七	一	赤色	赤色
五三七	八	濕潤	濕潤
五五七	三	聽診	聽診
五六一	一	發疹	發疹



終